



第2次 協働のまちづくり推進計画

～ 多様な協働で まちの魅力と安心を デザイン ～



三 芳 町
平成24年度～27年度



第2次 協働のまちづくり推進計画

～多様な協働でまちの魅力と安心をデザイン～

目次

1章	はじめに	…	3
2章	計画の位置づけと期間	…	4
3章	協働政策展開の経緯	…	5
	(1) 合併協議の終了から自立型総合計画の策定へ		
	(2) 協働のまちづくり推進計画（第1次）から協働のまちづくり条例施行へ		
	(3) 協働のまちづくりネットワークの設立		
4章	本計画における各用語の定義	…	8
	(1) 協働の主体者		
	(2) 協働の概念		
5章	三芳町における協働の現状	…	11
	(1) 行政各分野における住民参加や協働の取組みの現状		
	(2) 協働のしかけ（制度）の整備・運用の現状		
	(3) 協働のまちづくりネットワークにおける協働モデル事業		
	(4) 協働に係る学習会・研修会の実施状況		
6章	町の協働展開の課題と新たな動き	…	26
	(1) まちづくりの担い手不足と多様なまちづくり主体		
	(2) 新たな協働展開の動き		
	(3) 事業協働と政策協働		
	(4) 自治と協働		
7章	基本方針及び施策の大綱	…	28
	(1) 基本方針		
	(2) 施策の大綱と目標		
8章	施策の柱Ⅰ 関連の推進施策	…	30
	(1) 協働理念の共有とまちづくりの担い手発掘・育成		
	(2) 多様な活動主体の効果的連携促進		

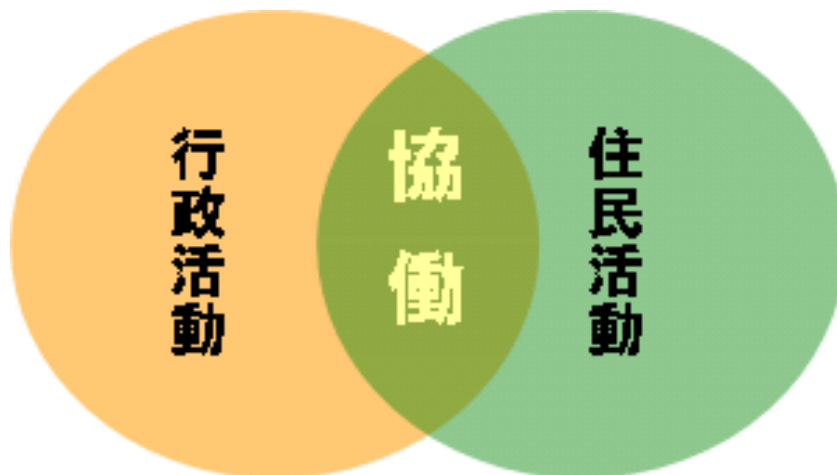
9章 施策の柱Ⅱ関連の推進施策	…	32
（1）政策協働と事業協働の双方向関与の促進		
（2）協働の多様な取組みに対応できる町推進体制の整備		
（3）自治基本条例制定を見据えた取組み		
10章 施策の柱Ⅲ関連の推進施策	…	36
（1）情報共有のしかけ		
（2）段階に応じた住民参加のしかけ		
（3）人材をまちづくりにつなぐシステム		
（4）協働推進のための基盤整備		
（5）柔軟な協働推進体制の構築		
11章 協働アクションプラン2012の策定について	…	41
12章 まとめ	…	44
13章 資料編	…	45
（1）第2次協働のまちづくり推進計画策定の経緯		
（2）協働のまちづくり条例・同施行規則		
（3）協働のまちづくり啓発リーフレット		
（4）淑徳大学との連携協力に関する包括協定書		

1章 はじめに

平成 18 年度を初年度とする「第 4 次総合振興計画」の将来像として「みんながつくる みどり いきいき ぬくもり のまち」が定められ、「みんながつくる」すなわち「協働」による自立型のまちづくりがスタートした。「みどり＝環境保全」「いきいき＝経済活力、教育」「ぬくもり＝福祉、安全」の各政策が、町を構成するすべての者の知恵と力で推進されることになった。

もとより、「協働」はまちづくりの手段であって目的ではない。総合振興計画の各施策を協働手法によって推進し、住民福祉の増進に寄与しようとするものである。平成 19 年度に本計画（第 1 次）が策定され、それに基づく「協働のまちづくり条例」施行（平成 20 年度）を契機として、協働のしくみづくりが進められ、まちづくり情報の共有や施策事業への住民参加が積極的に実施されることになった。

第 1 次の計画から 5 年を経過して、地域事情の変化も考慮し、協働展開の中で新たな課題も見えてきたことから、第 2 次の計画を定めることとなったものである。

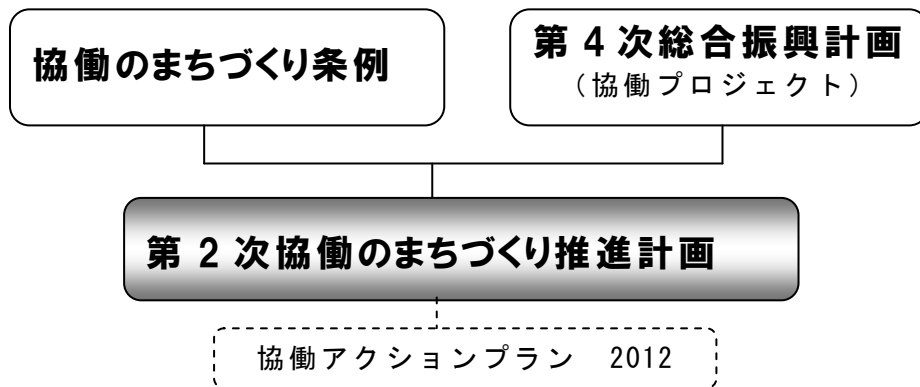


2章 計画の位置づけと期間

(1) 計画の位置づけ

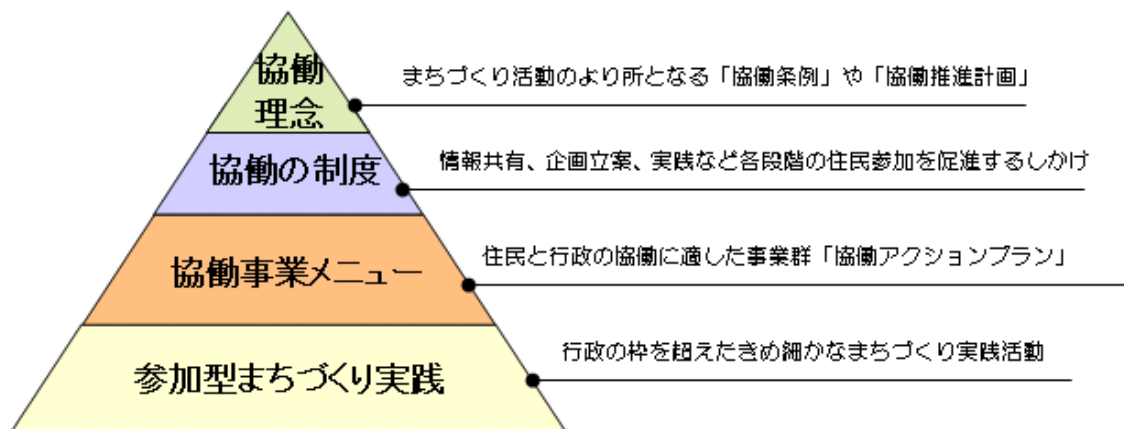
三芳町協働のまちづくり条例（平成20年条例第1号）第11条の規定に基づき、協働のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために定めるものである。

第4次総合振興計画（後期）を協働手法（協働プロジェクト）により推進するための計画とし、前計画（第1次計画／平成19年度～平成23年度）の成果と課題を踏まえて見直しを図り、第2次計画として策定する。



(2) 計画期間

平成24年4月～平成28年3月（4年間／総合振興計画目標年度まで）



※協働のまちづくり啓発パンフレットより（H20.6全戸配布）

3章 協働政策展開の経緯

(1) 合併協議の終了から自立型総合計画の策定へ

①合併協議会解散（平成15年度）

住民投票を受け、富士見市・上福岡市・大井町・三芳町の法定合併協議会が解散し、町は自立の道を歩むこととなった。

②第4次総合振興計画スタート（平成18年度）

住民とともに自立のまちを創ることを前提に、ワークショップ等の住民参加手法を駆使して「第4次総合振興計画」が策定され、スタートした。「みんながつくる みどり いきいき ぬくもりのまち」を将来像として、「みんながつくる（まち）」すなわち「協働」がまちづくりの中心理念として推進されることになった。計画の重点施策には「協働プロジェクト」が掲げられた。

<協働プロジェクト概要>

ア) まちづくり委員会等住民協働のしくみづくりの検討

イ) 審議会委員の公募

ウ) 事業の企画段階からの住民参加促進

エ) 行財政情報の積極的な公開

オ) パブリックコメント制度導入、まちづくり講座、懇談会等の実施 等

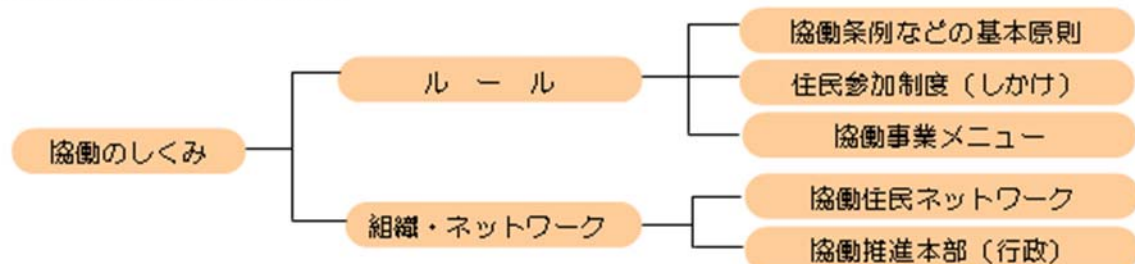
③協働のまちづくり研究員公募（平成18年度）

協働プロジェクトの皮切りとして、研究員を公募した。三芳町に適した協働のしくみづくりに向け、12回の研究会と2回の公開学習会を実施し、平成19年3月に町長あて「三芳町協働のまちづくり研究報告」を提出、協働を推進するためのルールと組織が提案され、協働の基本ルールとして「協働のまちづくり条例」の素案が提言された。

協働のしくみ

※「協働のまちづくり推進計画」より

立場の異なる者同士が心をひとつにしてまちづくりに取り組むためには、ルールや推進体制が必要になります。ルールはみんなで作っていきます。また、ネットワークは住民誰でも参加できることが基本です。



(2) 協働のまちづくり推進計画策定から協働のまちづくり条例施行へ

① 協働推進本部の設置と協働のしくみ整備（平成 19 年度～）

町は平成 19 年度に庁内組織として町長をトップとする「協働推進本部」を設置し、前述の研究報告をもとに、協働のまちづくり推進計画（第 1 次）の策定ほか、各種のしくみづくりに着手した。

協働を推進するしかけ（制度）として、「まちづくり懇話会実施要綱」「パブリックコメント条例」を施行、また、協働推進本部と連携して協働を推進する住民組織「協働のまちづくり住民ネットワーク」準備会の公募を開始した。

② 大学との協働推進

地元大学による地域貢献を促進して、町との協働を進め、学識者や学生の力を各分野のまちづくりに活かせるよう「淑徳大学との連携協力に関する包括協定書（平成 19 年 10 月）」が締結された。（→資料編に掲載）

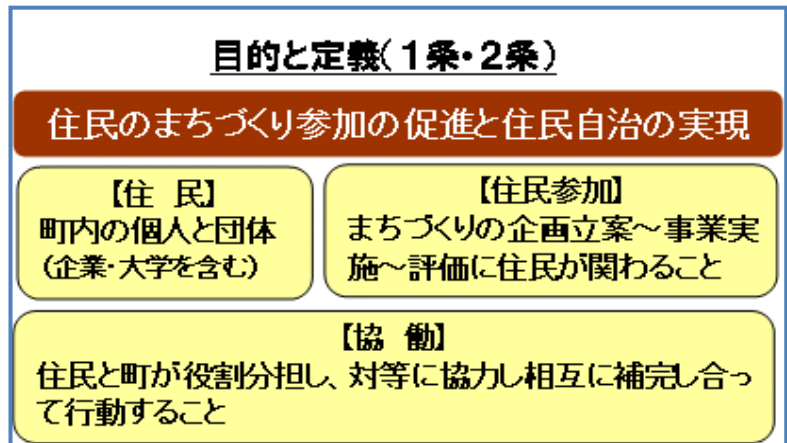
③ 住民主体の協働推進組織の準備へ

住民主体の協働推進組織として、協働のまちづくりネットワーク準備会が平成 19 年 9 月 28 日に設置され、「組織」と「事業」の部会に分かれて検討が行われた。準備委員を呼びかけ、核となったのは、前年度の協働のまちづくり研究員である。この準備期間においても、協働推進本部と準備会が共催で、公開学習会を開催し、地域の声を企画段階から反映させるように努めた。

④ 協働のまちづくり条例施行（→資料編に掲載）

「協働のまちづくり研究報告」で提案された条例素案をベースとして、協働推進本部がネットワーク準備会の意見やパブリックコメント、議会全員協議会等を経て協働のまちづくり条例原案を策定、平成 20 年 3 月に議会の全会一致で可決・成立した。この条例は、異なるまちづくり主体者が協働する時の行動のよりどころとなる基本ルールを定めたものである。

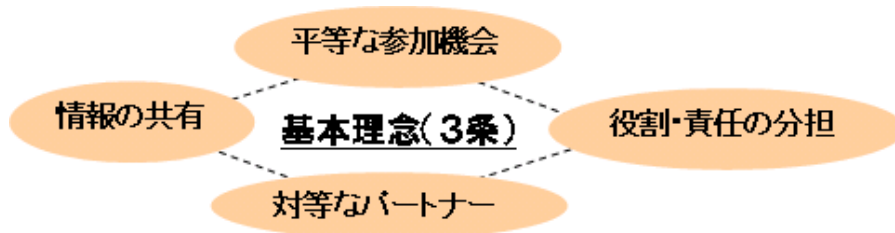
条例の特徴は、町の条例で初めてその理念や決意を示す「前文」を掲載したこと、住民に親しみやすくするため表現を「です・ます調」に統一したことなどである。また、町を構成するすべての個人・団体をまちづくりの当事者とするため、「住民」を広く定義し、協働における住民、行政、議会



※協働のまちづくり啓発パンフレットより（H20.6 全戸配布）

の役割を明確にしたことなどがあげられる。

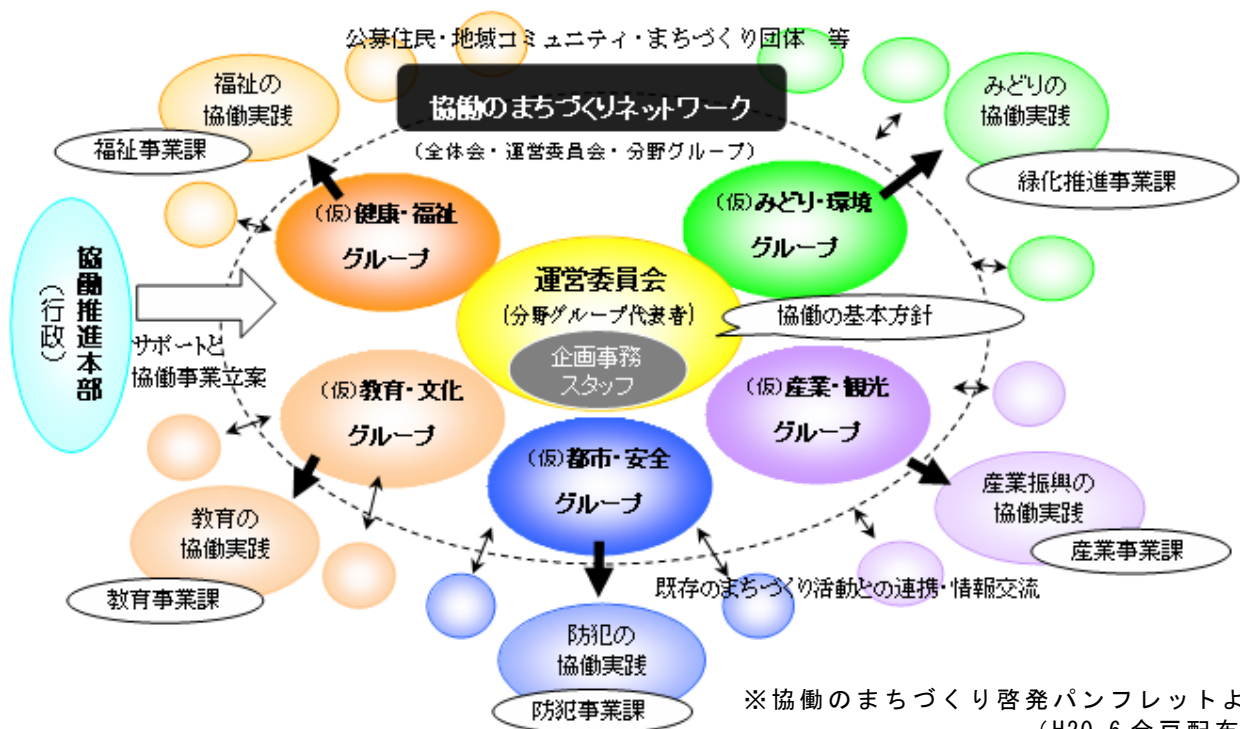
なお、平成 18 年度の協働のまちづくり研究において、基本ルールを「自治基本条例」とすべきか議論があったところだが、前計画のまとめに掲載のとおり、まずは協働を地域が育て、着実に根付かせることを優先するため本条例とし、次のステップとして、自治のまちづくりの機運が高まった段階で、町を構成する主体の総意に基づき「自治基本条例」を検討することとなった。



※協働のまちづくり啓発パンフレットより (H20.6 全戸配布)

(3) 協働のまちづくりネットワークの設立へ

- ・協働のまちづくりネットワーク（以下、「まちづくりネット」という。）設立（平成 20 年度）
- ・協働アクションプラン（事業計画）の策定（平成 20 年度）
- ・分野プラン調整会議（町との分野モデル事業調整）（平成 21 年度～）
- ・協働推進会議の設置（町との総合調整）（平成 22 年度～）



※協働のまちづくり啓発パンフレットより (H20.6 全戸配布)

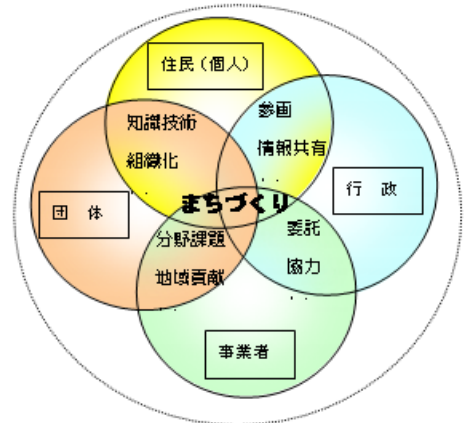
4章 本計画における用語の定義

本計画においては、以下で特記する定義のほかは、協働のまちづくり条例の定義によるものとする。

(1) 協働の主体者

協働のまちづくり条例第2条及び同施行規則第2条では、「住民※」を次のように定義し、協働の主体者としている。

- ①町内に在住・在勤・在学する個人
- ②町内で事業活動を行う個人
- ③町内で事業活動を行う法人その他の団体
 - ア) 地域コミュニティ（行政連絡区、自治会その他の近隣組織）…規則1号団体
 - イ) 公益的法人等（NPO法人、農協、生協、社協等）…規則2号団体
 - ウ) 教育研究機関（大学、幼稚園等）…規則3号団体
 - エ) まちづくり活動、ボランティア活動を行う団体・サークル…規則4号団体
 - オ) その他自発的・自立的な公益活動を行う集団（政治・宗教・営利を除く）…規則5号団体

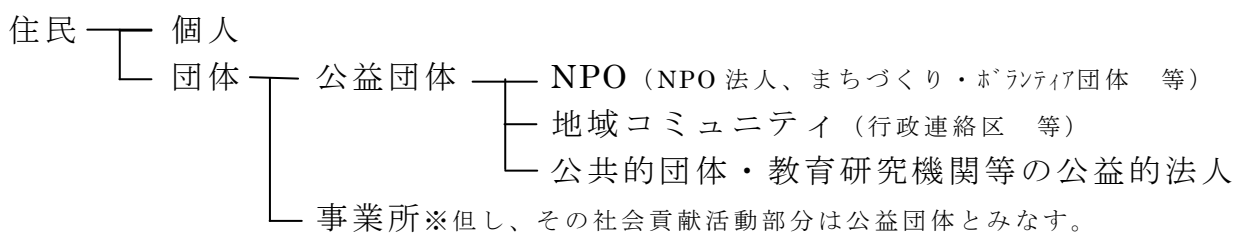


※条例第2条では、住民（個人及び団体）は、住所や本拠が町内になくとも、活動が町内で行われていれば住民としてみなしている。

上記は、主体者の形態で見ると、「個人」（①②）と「団体」（③）に大別される。特に団体はその活動の公益性に着目し、町行政の協働パートナーに想定していることから、本計画では③ア）～オ）を「公益団体」と呼ぶこととする。

本計画では、住民参加は「個人」を中心に、組織的な協働は「公益団体」を中心に推進することを原則とする。

住民の役割(5条)



公益団体のうち、「NPO^{*}」は、特に「NPO法人」と表記する場合を除き、テーマ型の公益的なまちづくり活動を行う住民団体・ボランティア団体（③エ）まで含めて、広く定義することとする。

※「NPO（NonProfit Organization）」とは、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称。このうち「特定非営利活動法人（NPO法人）」は、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人。法人格の有無を問わず、様々な分野（福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など）で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されている。（内閣府ホームページより）

公益団体のうち、「地域コミュニティ」は、NPOがテーマ型であるのに対し、条例で地縁型（エリア型）のまちづくりの主体者として重要な概念に位置づけており、住民は「良好な地域コミュニティの形成に努め」ることとしている。

なお、団体のうち、営利団体（企業・事業者）であっても、その社会貢献活動（CSR）等は組織的な協働になりうるものとして、協働の主体者に加えることとする。

本計画では、協働パートナーの中核をなす公益団体について、

①テーマ型のまちづくり活動を行う住民組織を「NPO」

②エリア型のまちづくり活動を行う近隣組織を「地域コミュニティ」

とする。

（２）協働の概念

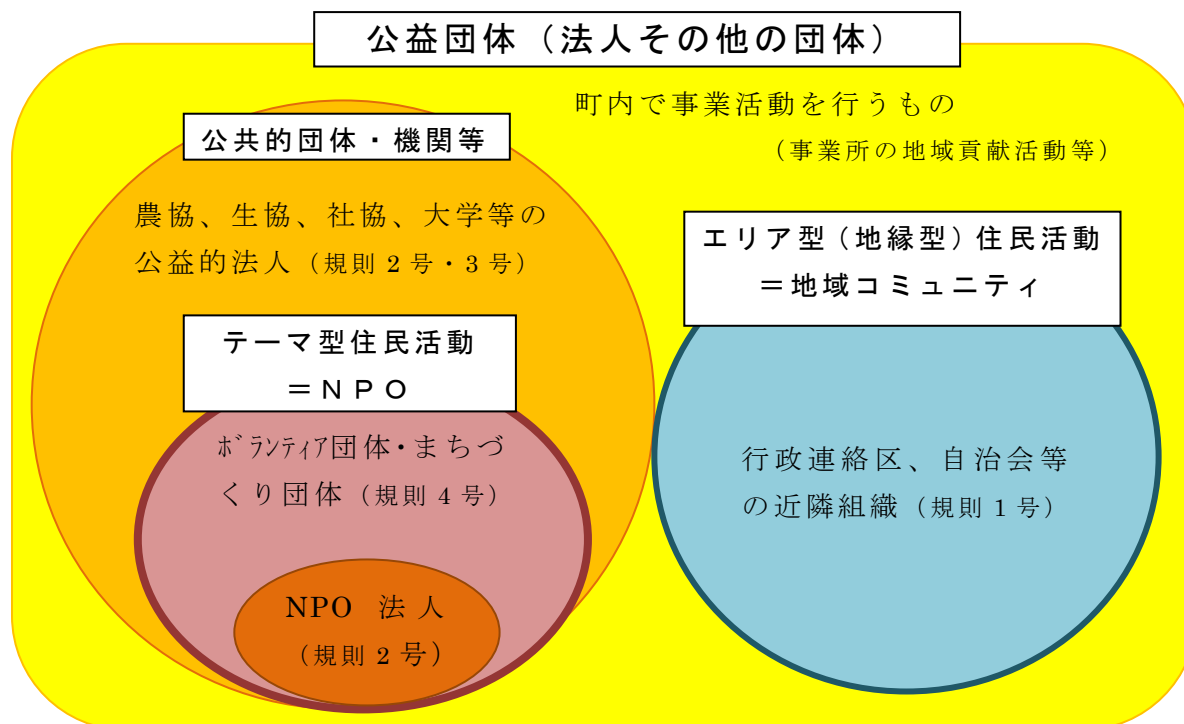
協働は、広義では、以下の「参加」と「協働」を含めた概念として条例にうたわれている。

①住民参加＝ 住民が自らの意志を反映させることを目的として、町の施策・事業の企画立案、実施又は評価の過程に主体的に関わること

②協働＝ 住民と町がそれぞれ自らの果たすべき役割を自覚して、対等の立場で協力し合い、補完し合って行動すること

本計画において、「協働」は、広義では個人を中心とした①の住民参加を包含する概念として使用するが、狭義では②のような「公益団体」や「行政」による組織的な連携協力の取組みを指すものとして使用する。

協働主体者の概念図



※太枠内が、核となる協働パートナー

5章 三芳町における協働の現状

総合振興計画見直しのための住民意識調査（平成22年4月実施）の結果によると、協働プロジェクト全般の進捗状況では、

「進んでいる」「少し進んでいる」合計 … 19.9%

「進んでいない」「あまり進んでいない」合計 … 18.9%

という現状にあり、住民意識の中では大きな変化は感じられていないと捉えることができる。さらに、61.1%の住民が「わからない・どちらともいえない」「無回答」としており、真摯に受け止めるべきである。調査が協働プロジェクト本格始動後間もない時期であり、また、総合振興計画全体にわたる調査の性質上、具体性に欠けた調査項目であったとはいえ、「協働」の言葉や考え方が地域に浸透していないことを示しており、第2次となる本計画においては、なお一層協働の意義について地域に分かりやすく理解を促していく必要がある。

（1）行政各分野における住民参加や協働の取組みの現状

【住民参加事務事業調査】

協働推進本部では、平成21年度と平成23年度の2回にわたって、町行政各部署における住民参加の現状を調査した。以下は、平成23年度の実施概要である。

<調査目的>行政各分野への住民参加の実態や進捗状況、今後の予定等を調べ、第2次協働のまちづくり推進計画策定のための基礎資料とするもの。

<調査時期>平成23年10月～11月（基準日／平成23年9月1日）

<調査方法>庁内イントラネットにより平成21年度調査票をベースに各課に照会し、回答を得た。

<結果概要>

① 事業数

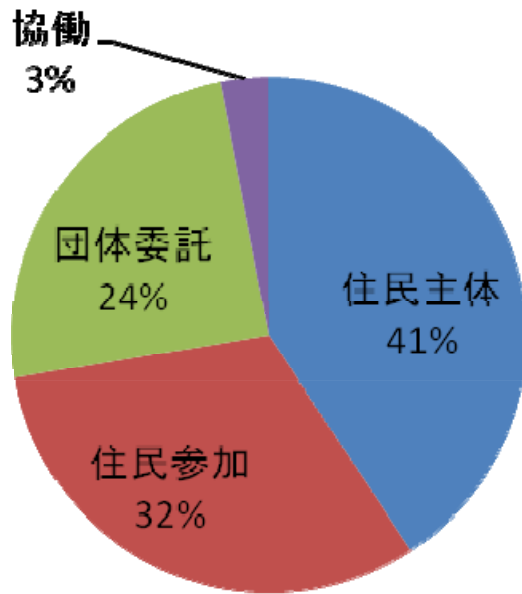
平成23年度9月時点で、199事業（今後検討予定を含めると272事業）について、何らかの住民参加手法を用いて事務事業が実施されていた。前回調査との比較では微増（6事業増）であった。

② 参加形態Ⅰ（活動軸）

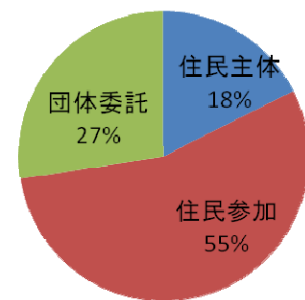
参加主体の活動軸では、行政のスリム化と相まってか、前回調査では行政活動への「住民参加」中心であったが、今回は「住民主体」すなわち、住民活動の支援を中心とした関与が18%から41%に増加していることがわかる。

なお、今回の調査では新たに「協働（対等連携）」の項目を設けた。

H23調査における参加形態



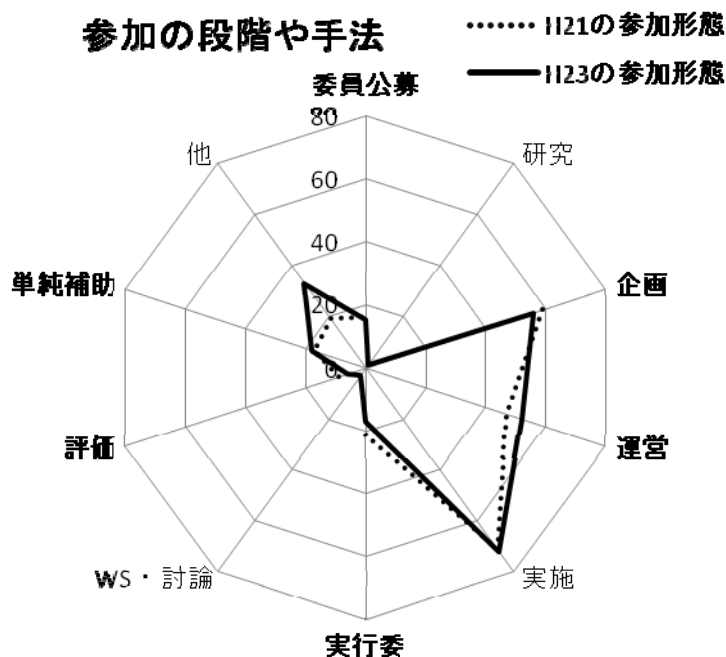
H21調査における参加形態



③ 参加形態Ⅱ（参加段階や手法）

参加の段階や手法は、複数回答とした。前回調査と比較しても大きな変化は見られない。企画、運営、実施はバランス良く実施されているものの、評価への参加が進んでいないことがわかる。又、実施時や単純補助（お手伝い的な参加）に比して、ワークショップ（WS）や研究などのまちづくりに関する意見交換の機会が少ない。（「研究」「WS・討論」は今回項目設定）

参加の段階や手法



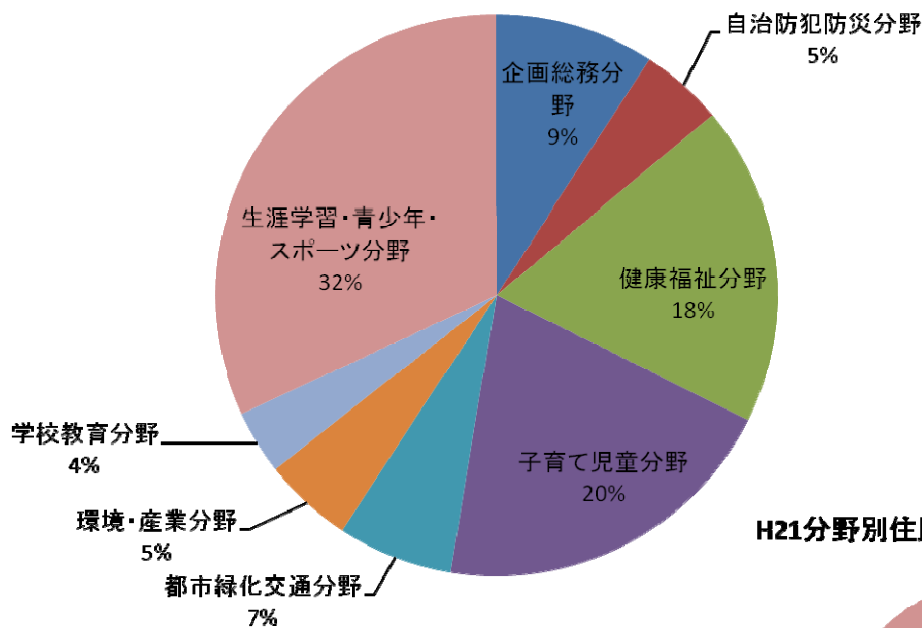
④ 行政分野別住民参加の状況

分野別にみると、生涯学習や福祉、子育て等、業務上住民と日常的に接する機会が多い分野が、企画運営への住民参加事業も多くなっている。

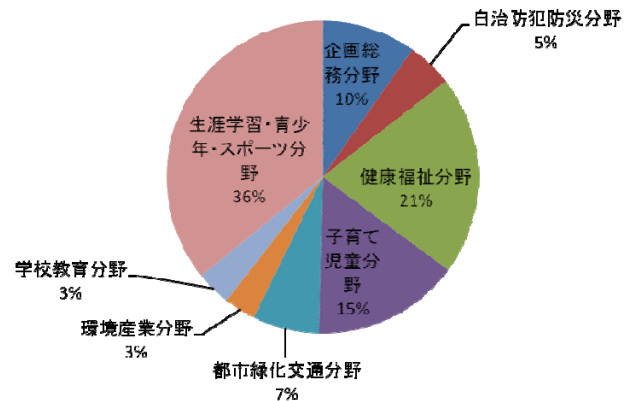
今後は、企画総務分野や都市建設分野を含めて、各分野へバランス良く住民参加が進むことが望まれる。

調査は量的な把握であって参加の質は考慮しておらず、また、分類方法にも課題が残る。

H23分野別住民参加の状況



H21分野別住民参加の状況



◎調査上の用語定義

<参加形態Ⅰ／活動軸>

- ①住民主体＝住民の事業活動に行政が何らかの継続的関与をしているもの。
- ②住民参加＝施策・事業の立案、決定、実施、評価のいずれかの過程に住民が関与しているもの。単なる来場者や受講者は除く。
- ③団体委託＝事務事業の一部又は全部を NPO 法人や社会福祉協議会等の公益団体に委ねるもの。業務委託・共催・協力等の事業連携を含むが、営利事業者への委託や指定管理は除く。
- ④協働＝住民組織と行政が対等性をもって役割分担を行い、企画から実施（評価）に至るまで連携協力するもの。H23 調査より新規項目。

<参加形態Ⅱ／段階や手法>

- ⑤委員公募＝審議会等の会議の委員を公募等の開かれた方法で選任・委嘱するもの。
- ⑥研究＝総合政策又は分野施策の重要課題について住民と行政が継続的に共同研究するもの。H23 調査より新規項目。
- ⑦企画＝事務事業の企画・立案など準備段階に住民が関与するもの。
- ⑧運営＝住民による会議や組織などを設置して継続的に事務事業の運営過程に住民が関与するもの。
- ⑨実施＝事務事業の実施段階で、住民の知識・経験を活かして実践をサポートしてもらうもの。但し、単に講座やイベントの来場者・受講者としての参加ではなく、住民がスタッフ的な役割をもつものに限定する。
- ⑩実行委員会＝イベントや講座の開催にあたって、住民主体の実行組織を結成して企画、実施、反省の一連の事業過程を委ねるもの。
- ⑪WS 又は意見交換会＝ワークショップや住民討論等の形式で、住民同士又は住民と行政が、施策や事業のあり方について意見交換し、課題整理や提言、企画立案等を行うもの。H23 調査より新規項目。
- ⑫評価＝事務事業の過程や結果において、広く住民から評価を受け、継続や見直し等、今後の企画に反映することを意図するもの。
- ⑬単純補助＝事務事業の準備や実施段階における単純な補助や手伝い（スタッフ）であって、企画や運営に住民の意見やアイデアの反映を意図しないもの。
- ⑭その他の参加手法＝出前講座や人材登録、ボランティア養成など、今後の住民の参加意欲の高揚を意図した働きかけ。

【大学との連携事業】

連携協力に関する包括協定（平成 19 年 10 月）等に基づき、地元淑徳大学との連携事業として、次のようなものが実施されている（平成 22・23 年度実績）。

- ①みよしコミュニティカレッジの開設委託
（年 3～4 講座／スポーツ、異文化、パソコン、歴史文化など）
- ②世界一のいも掘り大会時の町 B 級グルメアンケート（学生による実施）
- ③実習生受け入れ（地域包括支援センター）
- ④町専門職員の講師派遣（介護保険制度について）

その他の大学等との連携として看護学、管理栄養士及び博物館実習生の受け入れを実施している（平成 22・23 年度）。

- ①埼玉医科大学 ②女子栄養大学 ③埼玉県立大学 ④城西大学
- ⑤人間総合大学 ⑥十文字学園女子大学 ⑦上福岡高等看護学院
- ⑧跡見学園女子大学

(2) 協働のしかけ（制度）の整備・運用現状

協働のまちづくり条例施行規則第4条各号において、第1次協働のまちづくり推進計画に基づき、協働を推進するためのしくみ（しかけ・制度）が定められている。しくみの概要と整備・運用状況については、概ね次のとおりである。

①情報共有のしくみ（規則第4条第1号）

ア まちづくり懇話会 重要計画・施策・事業その他町政全般に関する住民と町長の意見交換の制度。

平成19年度に要綱を整備し、現在まで継続している。当初は、行政区単位で集会所を会場とし、議題を用意せず住民の意見・提案をとりまとめたが、平成23年度は小学校区単位として、町政全般又は地域限定の重要政策に関して町の説明を行い、意見を交わす企画とした。平成23年度は、5会場で総計185人の参加を得た。

イ 情報公開制度

情報公開条例（平成17年度）に基づく請求による行政情報の公開と条例によらない行政の積極的な公表のしくみ。情報公開条例に基づくものは、平成22～23年度で合計50件の請求・公開が実施された。近年は、行政の透明性の確保が重視されるようになり、条例に基づく請求にかかわらず、個人情報等を除き、財政状況を含めて、広報やホームページで住民が必要とする情報を各行政分野が積極的に公表するようになってきた。

ウ 出前講座等まちづくり学習制度 住民の要請により、町職員を住民が主催する集会、学習会等に派遣して、まちづくり学習を支援するものだが、平成22～23年度は、合計12件の住民の依頼等に基づき、介護予防や防災等のテーマで各担当課が学習を支援した。

エ 審議会等会議の公開制度 地方自治法に規定する審議会等の附属機関やこれに準ずる会議を住民に公開する制度で、平成20年度に指針が制定され、平成22～23年度は合計85件の会議が公開された。

オ 地域懇談会

町が主要な計画又は施策・事業を策定する際に、住民に内容の説明や情報提供を行い、住民の意見を広く聴き、当該計画等に反映させるもので、策定の際に、担当部署ごとに実施している。

- カ 町長への手紙 住民の視点からまちづくりの課題を直接町長に提言する制度で、平成 5 年から実施している。その後メール形式を追加し、平成 22～23 年度あわせて 285 件が寄せられた。



<まちづくり懇話会>

②政策形成過程における住民参加のしくみ（規則第 4 条第 2 号）

- ア パブリック・コメント手続制度 町が基本的な方針や計画、条例・規則の策定する過程で、住民の意見を広く募集して反映させる制度。平成 19 年度にパブリック・コメント手続条例を制定した。開始以来（平成 19～23 年度）、計 24 件の事案で実施された。
- イ 審議会等委員公募制度 町が審議会又はこれに準ずる会議の委員を任命する際に、構成委員の一部又は全部を広く住民から募集する制度。平成 22～23 年度あわせて 14 件の審議会等で住民公募を実施している。
- ウ まちづくり提案制度 町がまちづくりのモデルとなる事業等について、住民から広く提案を募集し、これらの提案のなかから補助、委託等により事業を実施し、住民の地域コミュニティや自主的なまちづくり活動を支援するしくみだが、制度化には至っていない。平成 23 年度に、公募型補助金制度により、まちづくり提案の採択という一部趣旨が実現している。
- エ ワークショップ等施策立案会議制度 町が主要な施策・事業を策定する過程で、グループワーク等により住民と町が課題を出し合い、整理しながら解決手法の案を作り上げていく企画立案手法。主に、協働のまちづくりワークショップで実施されている。

③事業実施段階における住民参加のしくみ（規則第4条第3号）

- ア 事業の企画委員会又は実行委員会制度 町の事業に住民の視点を導入しながら、住民が主体となって組織的に内容を企画・運営し、実施するしくみ。みよしまつり、産業祭、体育祭、子どもフェスティバル等のイベント実行委員会の他、公民館などの学習講座の企画運営委員会等で採用している。
- イ 事業サポーター制度 町が実施する事業において、当該事業分野に関心が高い、又は精通している住民が当該事業のスタッフとして実践に関わるものだが、前項の制度の中で運用されている例が多い。
- ウ 協働のまちづくり登録制度 住民の知識、経験等をまちづくりに活かすことを目的として、人材、団体等を登録するしくみ。現在は福祉・社会教育等の分野ごとに行われている。



<みよしまつり／実行委員会による企画・運営>

④施策・事業評価における住民参加のしくみ（規則第4条第4号）

- ア 住民モニター制度 町が実施している、又は実施した施策・事業に対して、住民が感想、アイデア等を寄せるしくみだが、制度化には至っていない。
- イ 住民意識調査 調査項目を設定し、広く住民から当該行政分野の現状に対する満足度や今後に期待する意見を収集して傾向を把握・分析するもの。今後の計画等に反映させようとする場合は、地域懇談会等と組み合わせて実施することが多い。最近では、総合振興計画が後期に入る際、一部見直しに反映させるため平成22年度に実施したほか、健康増進等の分野で取り組んでいる。
- ウ 行政評価制度 総合振興計画に基づき策定される3か年実施計

画の掲載事業について、事前・事後の段階で行政の内部評価を行う事務事業評価は、平成 18 年度に試行し、翌年から実施要綱を策定して本格導入され、概要が公表されてきた。平成 22 年度は 257 事業、23 年度は 243 事業について実施した。

なお、平成 23 年度は、この制度を住民参加のしくみに運用し、「事業の仕分け」として外部評価が実現している。

⑤その他町長が必要と認めて実施したしくみ（規則第 4 条第 5 号）

<政策形成過程における住民参加のしくみ>

ア 政策研究所

公募による住民と職員が、学識経験者の助言を受けながら町の重要課題について調査研究し、政策形成、提言していく住民参加のしくみ。平成 23 年度に導入され、町が提示した 3 つの政策テーマ「観光のまちづくり」「公共交通」「自治基本条例」に取り組んできた。

イ 意見交換型世論調査 無作為抽出で選定された住民が、一定の施策情報や論点に対して、アンケートと意見交換を組み合わせ、世論を形成していく住民参加の調査手法。平成 23 年度導入され、公民館の管理運営や建て替えを論点として実施された。

<事業実施段階における住民参加のしくみ>

ウ 公募型補助金制度

住民の公益活動等を支援してまちづくりに寄与するため、従来の補助金交付を見直して、広く公募を行い、第三者の視点を導入して透明性のある決定手続きを行うしくみ。平成 23 年度に導入された。

<施策・事業評価における住民参加のしくみ>

エ 事業の仕分け

町の主要な施策・事業について、職員の説明を受けて住民等が第三者評価を行い、公開の中で今後の事業の方向性に関与するしくみ。

平成 23 年度に導入され、④ウ「行政評価制度」の 3 か年実施計画・事務事業評価シートを活用しつつ、初年度は 32 事業について、2 会場で 2 日間「事業の仕分け」が実施された。



<みよし版事業の仕分け>

(3) 協働のまちづくりネットワークにおける協働モデル事業

協働のまちづくりネットワークは、協働のまちづくり条例に定める協働推進組織として平成20年9月28日に設立され、5つの分野グループが行政各担当課と連携しながら、協働アクションプランに描かれた協働モデル事業を企画・実施した。各事業の概要と成果・課題は次のとおりである。

①健康福祉グループ

- ・テーマ 高齢者・障がい者の居場所づくり
- ・事業 ふれあいサロン開設（又は開設支援）
 - ・藤久保5区、北永井2区、藤久保4区
- ・パートナー 福祉課・健康増進課
- ・プラン達成状況・協働効果・課題等

モデル事業のうち、障がい者の居場所づくりは未着手だったが、高齢者については「ふれあいサロン」を3か所立上げ、小地域の居場所づくりの刺激となった。行政区の理解も得て、身近な集会所で定期開催し、コミュニティ活動や社会福祉協議会事業へのつながりにも一定の貢献ができた。

内容では、参加者自身が担い手となり、また技能活用の機会にもなって、いきが
いづくりの場としても効果は大きかった。

今後は、小地域の住民が担い手となって、継続的なサロン事業が展開されることが望まれる。



<ふれあいサロン>

②みどり環境グループ

- ・テーマ
 - ア) 雑木林（ヤマ）の活用と環境教育
 - イ) エコライフ推進（ゴミ減量）
 - ウ) 公園マップづくり（自然を活かした公園づくり）
- ・事業
 - ア) グリーンサポート隊による雑木林保全作業と環境教育
 - イ) 県のエコライフデイへの住民参加促進
 - ウ) 公園紹介パンフレットの作成（魅力紹介）
- ・パートナー 都市計画課・環境産業課
- ・プラン達成状況・協働効果・課題等

モデル事業のうち、雑木林の保全・活用については、実行部隊としてグリーンサポート隊を立ち上げ、予想以上の参加者によって、保全面積、作業体制等の確保ができ、基礎づくりができた。担当課との適切な役割分担、地元企業の参加、県機関の支援等により、地権者交渉、事業への信用、安全確保、仲間づくりが進んだ。今後は、作業員の安定的な確保、技術向上、面積拡大に伴う対応、継続性等が課題となっている。

「エコライフの推進」については、当初「マイバッグ運動」事業を変更したものの、担当課と協議の後、実行委員会を立ち上げ、県エコライフシートを活用して、行政区の協力も得ながら住民啓発を行ってきた。

公園紹介マップについては、町内各公園の魅力を紹介したファイルを作成して活用を促進しようとしたが、住民の意見募集の際の反応が薄く、やむを得ず作業中止となったもの。公園の利活用は今後の課題となっている。



<雑木林保全活動／グリーンサポート隊>

③都市安全グループ

- ・テーマ 安全・安心なまちづくり
- ・事業 安全安心マップの作成と活用
- ・パートナー 地域振興課・道路交通課・(学校教育課)
- ・プラン達成状況・協働効果・課題等

モデル事業の取組みとしては、5つの小学校区ごとにメンバーの足で通学路を実地調査し、交通安全上や防犯上の危険個所をチェックした上で、さらに交通指導員立哨場所やこども110番の家等の情報も落とし込んだ「安全安心マップ」を作成、各小学校に配布した。

その後、道路事情の変化も考慮し、各学校やPTA等の参加協力を得て合同踏査を実施し、見直し作業に取り組んだ。

こうした作業を経て、肌で自分の地域の現状を確認し、課題を関係者と共有できたことは大きな成果である。一方で、警察の指導等もあって、犯罪等に逆利用される心配から、不特定多数にマップを配布できないという課題も残った。しかし、子どもの安心の担い手関係者が共通認識を持つ意味からも、今後も連携協力のもとで定期的な見直し作業と活用方法の検討を行う必要がある。そのほかの課題として、メンバーの確保や協働のあり方等がある。



<安全安心マップの現地調査活動>

④産業観光グループ

- ・テーマ 三芳の顔づくり
- ・事業 ア) みよしっ子やさい市の開設 (三芳農産物の規格外品の販売)
イ) 埼玉 B 級グルメ王決定戦参加 他
- ・パートナー 環境産業課
- ・プラン達成状況・協働効果・課題等

モデル事業の「みよしっ子やさい市」は、当初「三芳農産物の規格外品の販売」だったが、生産者の事情等を調査・検討の後、一部修正して実施した企画である。第4土曜日の藤久保地区に加え、水曜日のみよし台サテライトも開設し、定期開催が定着した。さらに、農家との連携が少しずつ出来始めた。しかし、三芳産ブランドの確立に至るには、まだ多くの時間と労力を要する。

課題として、メンバーの負担が多く、担い手の確保や町内企業との



<みよしっ子やさい市>

コラボレーションも視野に入れた検討が必要となっている。

埼玉 B 級グルメ王参加については、当初の企画である「三芳産の野菜を使った料理コンテスト」や「料理教室」の実践を経て実現したものであり、三芳産の加工品試作を通して観光施策への足がかりになった。

⑤教育文化グループ

- ・テーマ 子どもの居場所づくり
- ・事業 子どもの学習支援事業
(こども学習ひろば活動の支援、ふじくぼ寺子屋の開設、児童館・学童保育室活動の支援)
- ・パートナー 社会教育課・学校教育課・地域振興課・(こども支援課)
- ・プラン達成状況・協働効果・課題等

モデル事業「子どもの学習支援事業」については、学習環境に恵まれない児童等を対象とした「こども学習ひろば」活動をボランティア募集等で側面支援し、その後、ふじくぼ寺子屋開設の経験を経て、児童館・学童保育室での交流活動へとつながった。学習支援では「子どもに寄り添う」というスタンスの重要性が確認できた。

課題として、学習支援事業の継続の必要性は認められるが、種々の活動上の制約もあることから、協働担当課とは更なる合意形成が必要となっている。



<児童館活動支援>

⑥全体プラン（運営委員会主管）

- ・事業 ア) 協働のまちづくり公開学習会（次項（4）1 参照）
イ) まちづくり活動担い手支援事業
ウ) まちづくりネットニュース発行（年 2 回）
- ・パートナー 協働推進本部（地域振興課）

・プラン達成状況・協働効果・課題等

公開学習会については、「みんなで魅力あるまちをデザイン」をテーマとして、協働推進本部との合同により、毎年継続的に実施してきた。

当初（平成 20～21 年度）は、講演やパネルトーク等の学習会形式で実施し、その後（平成 22～23 年度）は、まちづくり参加層の拡大に重点化して、住民により親しみやすく、活動に興味を沸くよう、「協働のまちづくりフェア」に事業名を定めて企画・実施した。

参加者の増加等の効果がすぐには表れないこともあって、企画内容や PR 方法等に課題を残しているが、地道にまちづくりへの関心を促すため、関係機関・団体との連携協力を通して企画上の工夫を行いつつ、今後も継続的な取り組みが必要である。

まちづくり活動担い手支援では、まちづくりネットへの団体登録や事業会員登録を中心として、活動のつながり支援が進められてきたが、今後は、より広範に各種 NPO 活動や公共的団体・機関等における住民活動情報を調査・収集し、担い手となるまちづくり人材の適切なマッチングを進める環境づくりが求められる。

まちづくりネットニュースは、まちづくりネット事務スタッフの手づくりにより、活動状況の報告やお知らせを掲載して、年 2 回の全戸回覧を実施した。



<協働のまちづくりフェア>

(4) 協働に係る学習会・研修会の実施状況

①住民学習会（共催事業含む）

平成 18 年度…協働のまちづくり研究会と町の共催

- ・協働のまちづくり学習会Ⅰ（講義）
「協働のまちづくりからコミュニティデザインへ」
講師：中村陽一氏（立教大学教授）
- ・協働のまちづくり学習会Ⅱ（事例報告とパネルトーク）
「協働でまちがどうかわるの」
ゲスト：草加市瀬崎まちづくり市民会議

平成 20 年度…まちづくりネットと協働推進本部の共催

- ・協働のまちづくり公開学習会（基調講演とパネルトーク）
「みんなで魅力あるまちをデザイン」
講師：庄嶋孝広氏（市民社会パートナーズ代表）

平成 21 年度…まちづくりネットと協働推進本部の共催

- ・協働のまちづくり公開学習会（分科会と講義）
「みんなで魅力あるまちをデザインⅡ」
ゲスト：望月泰宏氏（南西部地域NPO連絡会会長）

平成 22 年度…まちづくりネットと協働推進本部の共催

- ・協働のまちづくりフェア 2011（クイズ・紹介ブース・野菜市等）
「協働☆みんなで魅力あるまちをデザイン」

平成 23 年度…まちづくりネットと協働推進本部の共催

- ・協働のまちづくり学習会（職員研修を兼ねる）
（MIYOSHI まちづくり工房～講演とワークショップ～）
講演：自治と協働って何？～行政と市民の協働はなぜ必要か？～
講師：牧瀬稔氏（(財)地域開発研究所、町政策アドバイザー）
WS：アクションプラン 2012 策定に向けた分野課題の抽出
- ・協働のまちづくりフェア 2012（活動紹介・震災企画・協力団体企画 等）



<まちづくり工房／ワークショップ>

②職員研修会

平成 20 年度

- ・協働のまちづくり職員研修会～新しい公共概念と協働政策の展開～
 - 1) 基礎研修（講演／全職員対象）
 - 2) 事例報告～グループ演習（演習／協働担当係長等） 3日間
講師：工藤秀美氏（㈱ひとアンドまち研究所代表）

平成 21 年度

- ・協働職員研修会
 - 1) 協働概論講義（全職員対象）
講師：庄嶋孝広氏（市民社会パートナーズ代表）
 - 2) 協働事業研究／ワークショップ～提案（主任以下） 4日間

平成 22 年度

- ・協働職員研修
 - 1) 概論講義（全職員対象）
講師：野島正也氏（文教大学副学長）
 - 2) 協働事業研究／ワークショップ～提案（主査以下） 3日間
※まちづくりネットの活動紹介を含む



<協働職員研修／企画立案プレゼンテーションの様子>

6章 町の協働展開の課題と新たな動き

(1) まちづくりの担い手不足と多様なまちづくり主体

まちづくりネットはもとより、公益活動を行うボランティア団体等は、町内に多く存在しており、従来、地道ながらも、草の根的に地域を支えてきた団体も多い。社会福祉協議会や各種の団体連合体等では、こうした人々の力をつないで地域福祉や特定分野のまちづくりに活かす活動を続けてきている。しかしながらその多くは、慢性的な担い手不足や高齢化に伴う後継者に悩んでいる様子が見られる。

様々な調査結果をみると、団塊の世代等をはじめとして、これから地域活動を始めてみたいという住民は多く潜在していると推察されるが、自分に合ったまちづくり活動を見つける手立てが不足しており、一方で、活動組織側では活動の魅力や醍醐味を伝える手法に行き詰っているという現状もみられる。

協働の事業計画である「協働アクションプラン」は、まちづくりネットと行政の間の協働事業計画にとどまるものであることから、他の公益団体を含めた多様な主体の連携・協働の枠組に発展できなかったという課題が残る。

(2) 新たな協働展開の動き

近年、町では、5章(2)⑤に掲載したような新たな手法による参加型行政が展開されている。市民研究員等による政策研究所、みよし版事業の仕分け、意見交換型世論調査、財政白書づくり等、その多くは政策レベルでの協働であり、あわせて情報公開の徹底も進められている。これらは、従来のお手伝い型住民参加や手続き上の情報公開の対極に位置づけられるもので、まちづくりの基本方向にまで参加を拡大する方向にある。

今後こうした動きは、第5次総合振興計画の策定に貢献できるものと考えられる。

(3) 事業協働と政策協働

平成19年度に設置された「協働のまちづくりネットワーク準備会」では、前述のとおり主として「組織」と「事業」について検討されたが、政策については、協働過程を経て策定された「第4次総合振興計画」に基づくこととして、政策実現のために具体的な事業レベルで「ともに汗をかく協働」が展開されることとなった(事業協働)。準備会としてもより分かりやすい協働を地域に浸透させることを優先したと考えられる。

しかし、総合振興計画や協働推進計画が5年以上経過すると、時代の変

化に対応した新たな政策の立案についても、検討する必要がある。前項に記述したように、第5次総合振興計画も視野に入れつつ、政策レベルの協働も課題となってきた（政策協働）。

（４）自治と協働

4章の定義で示したように、重要な協働主体である「NPO（テーマ型）」と「コミュニティ（エリア型）」の連携が不足していると考えられる。また、地方分権の進展とともに自治体責任が重くなり、(2)(3)に示すような「政策協働」が進む中では、協働理念をさらに進めた自治基本条例等について、当町における必要性も含めた論議・検討も重要課題になってきた。

以下、自治と協働に関する課題として重要なキーワードを列挙する。

- ①地域自治…コミュニティ／地縁型まちづくり
- ②分野協働…NPO／テーマ型まちづくり
- ③「参加」と「協働」
- ④協働条例と自治基本条例

（５）まちづくりワークショップにみる協働事業の課題

現行計画策定時は、協働のまちづくり条例も制定前であったことから、ルールづくりに重点が置かれていた。

事業協働は、まちづくりネットを中心に各担当課との連携でモデル事業として推進され、その効果もあって、従来、特定分野に偏っていた住民参加が幅広い分野に拡大されていくことに貢献した。

しかしながら、アクションプラン作成時において、住民も行政も「協働」の考え方に必ずしも統一がなく、手探りで分野事業が抽出され、すり合わされていった感もある。特に、初期段階で協働の大前提となる「まちづくり課題の共有」が住民と行政の間で不十分であった。このことにより、協働事業の展開において、住民と行政の役割分担が明確でなく、活動軸が一方に偏ったり、事業の公共性が明確にならず市民権を得づらい、などの課題が見られた。

今後は、住民・行政間の協働理念の共通理解を深めるとともに、事業協働の前提となる施策レベルの協働を進め、分野の基本計画・方針等の策定段階において、分野課題や施策の方向性、解決のための事業メニュー抽出、目的達成のための住民・行政の役割分担といった一連の検討作業を住民参加のもとで進めることが重要である。

7章 基本方針及び施策の大綱

(1) 基本方針

多様な協働で まちの魅力と安心を デザイン

町内では様々なまちづくり活動が様々な形態で展開されていることから、多様なまちづくり主体の連携が重要になってきた。また、事業協働のみならず、政策協働の可能性もまちづくりの重要な要素になってきた。

本計画においては、第4次総合振興計画後期にあたって、住民参加型まちづくりの多様な可能性に着目し、協働主体者の広がりと協働レベルの深まりを重点化することにより、町の構成員が一体となった魅力あるまち、安全安心なまちの創造に向け、効果的な協働を展開することを基本的な方向とする。

(2) 施策の大綱と目標

「多様な協働でまちの魅力と安心をデザイン」の基本方針のもと、施策の大綱を定める。大綱は、施策の柱と個別施策により構成する。

◆ 施策の柱Ⅰ：多様な主体（協働パートナー）による連携と協働

（NPO、地域コミュニティ等との協働）

＜個別施策＞

- ① 協働理念の共有とまちづくりの担い手発掘・育成
- ② 多様な活動主体の効果的連携促進

＜成果指標（目標値）＞

「まちづくりネットの担い手住民数」※まちづくりネット各分野活動の実動人数

平成23年度 181 ⇒ 平成27年度 230

「協働連携団体数」※まちづくりネット団体会員数

平成23年度 15 ⇒ 平成27年度 20

◆施策の柱Ⅱ：多様なレベルでの協働展開

(政策・施策・事業の各レベルに応じた協働手法の適用)

<個別施策>

- ①政策協働と事業協働の双方向関与の促進
- ②協働の多様な取組みに対応できる推進体制の整備
- ③自治基本条例制定を見据えた取組み

<成果指標（目標値）>

「政策又は施策協働の取組み数」※住民公募による政策・分野計画の検討会議等の数
平成23年度 20 ⇒ 平成27年度 26

◆施策の柱Ⅲ：施策を推進するしかけの整備・促進

(施策の柱Ⅰ・Ⅱを実現する制度・基盤・体制)

<個別施策>

- ①情報共有
- ②段階に応じた住民参加
- ③まちづくり人材のマッチングと活動組織の体力強化
- ④協働推進のための基盤整備
- ⑤柔軟な協働推進体制の構築

<成果指標（目標値）>

「協働推進制度の設置数」※5章(2)に基づく協働のしかけ（制度）の数
平成23年度末 15 ⇒ 平成27年度末 20

8章 施策の柱 I 関連の推進施策

◇◇◇◇ 多様な主体（協働パートナー）による連携と協働の展開 ◇◇◇◇

（1）協働理念の共有とまちづくりの担い手発掘・育成

計画段階からの情報公開を徹底して、可能な限り住民関与を広げていく中で、住民がより参加や協働に関わりやすい条件づくりを行っていく。まちづくり活動へ「はじめの一步」を応援して意欲を喚起し、継続していけるよう適切な情報提供（つながり支援）を行っていく。

【推進する取組み】

- ①各分野における協働事業メニュー整備の促進と地域啓発
- ②協働事業立案時における住民と行政の課題・目的意識の統一と役割分担の明確化
- ③まちづくりネット登録者の増加促進（事業登録、団体登録含む）
- ④行政各課における意識改革と協働・住民参加の機会の拡充
- ⑤大学との人材交流、共同企画の促進
- ⑥女性や障がい者のまちづくり参加環境の整備・拡充

（2）多様な活動主体の効果的連携促進

まちづくりネットは条例（施行規則）に規定された協働推進組織であり、今後は「まちぐるみの協働」に向けた推進役として機能が期待される。唯一の協働パートナーということではなく、他の公益活動とともに新しい公共の担い手として高めあう関係性が求められる。まちづくりネットの事業も他の公益団体の事業も、対等なまちづくり活動として信頼関係を築きながら、連携して「協働のまちづくり」に広がりが高まりが創出されるよう促進する必要がある。

今後、まちづくりネットに加えて、NPOや地域コミュニティが町行政との組織的な協働を行う「協働パートナー」の中核になってくることが期待される。行政活動はもちろん、NPOや地域コミュニティへの住民個人の「参加」は、協働に大きく寄与することになり、参加なくして協働は実現しない。

「地域コミュニティ」と「NPO」が補完し合いながら、まちづくりの縦糸と横糸として機能するよう、協働推進本部、まちづくりネット、さらには区長会が推進役となってこれらを紡いでいくとともに、公共的団体・機関（社協、大学等公益的法人を含む）のノウハウを効果的にまちづくりに活かすため、対等性に留意しながら事業連携していく必要がある。

また、規則5号団体（その他自発的・自立的な公益活動を行う集団）を広く解釈し、営利集団ではあるが、企業による公益活動（社会貢献活動／CSR）

も協働の概念に含めることが有効である。

【推進する取組み】

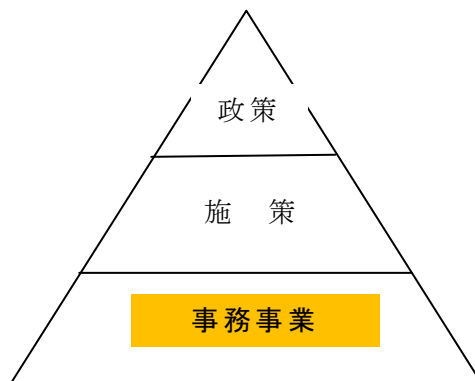
- ①行政区等の地域コミュニティ（エリア型まちづくり）との協働の推進
- ②町内の多様な公益団体によるまちづくり活動の現況調査
- ③まちづくりネット、NPO（テーマ型まちづくり）、地域コミュニティとのコラボレーション（イベント・事業活動の共催等）の展開
- ④公益的法人（社協・大学等）、地域貢献活動を行う事業所との協働の推進
- ⑤公益団体相互の協働の促進

9章 施策の柱Ⅱ 関連の推進施策

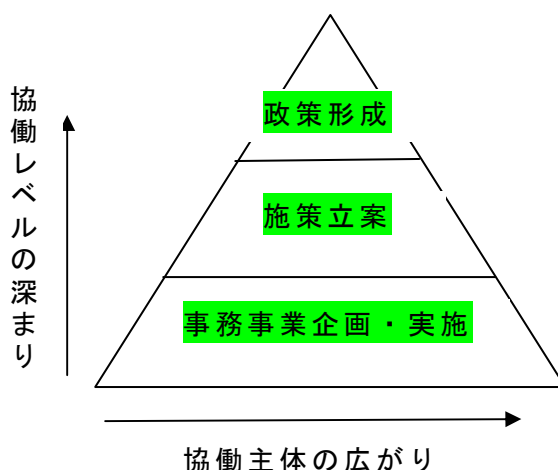
◇◇◇◇ 多様なレベルでの協働展開 ◇◇◇◇

(1) 政策協働と事業協働の双方向関与の促進

これまでの協働は、第4次総合振興計画に掲載された各種施策（特に重点施策）を実現するための手法として、下図のとおり、行政活動の体系のうち事務事業レベルの活動を中心としてその基礎を築いてきた。

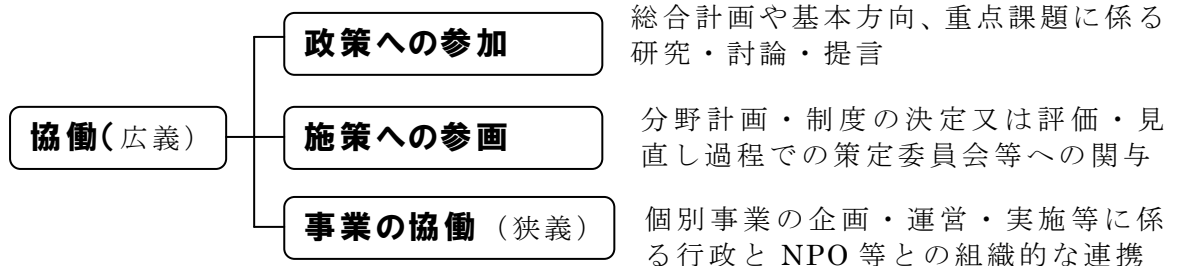


しかし、第4次総合振興計画が6年を経過し、第5次に向けた新たなまちづくりの方向性を模索し、民主的に導き出すための協働手法も必要になってきていると考えられる。そこで、本計画においては、協働が政策レベルまで及ぶことも考慮し、下図のように考え方を整理しておく必要がでてきた。



協働レベルに応じた取組み（しかけ）の概要を次のように整理するが、それぞれのしかけのレベル（深さ）は明確に線引き（固定）できるものではなく、柔軟に行き来しながら推進されるべきものである。

〔政策・施策・事業の協働イメージ〕



【推進する取組み】

①政策レベルの協働の推進(重要政策・財政等の町の基本方向への参加)

町長や議会による町の基本方向・重要政策の決定手続き過程において、「参加」や「提言」を基本にしつつ住民が関与するもの。住民参加を経て決定した政策を基に、さらに参加層を拡大しながら、それを具現化するための具体的な施策・事業レベルの協働に発展させることが望ましい。

政策や財政への住民参加が進めば、住民が行政運営全般の情報を共有した上で、住民それぞれの立場で関与の必要性や方法を見つけることができる。地方分権の中で自治体間競争が激化し、生き残るために町にどんな政策ビジョンが必要とされているのか、財政は破たんしないと言い切れるのか、などは行政のみが決めるのではなく、まちづくりの当事者である住民自身が情報を共有し、気付き、克服に向けた政策提言を行うことも大切である。

「政策研究所」等は政策レベルではあるが、協働の取組みとしても重要なものとなってきている。政策協働は、「参加」や「提言」を主軸として、自治基本条例や住民投票制度なども標榜しながら、議会制民主主義との両輪で政策決定に導かれることが有効と考えられる。

<政策レベルの協働のしかけ例>

総合振興計画策定、行政改革大綱策定、政策研究所、まちづくり懇話会、意見交換型世論調査、事業の仕分け、財政白書づくり、公募型補助金制度等への「参加」や「提言」

②施策レベルの協働の推進(分野の計画・施策・制度策定への参画)

事務事業が円滑に実施されるためには、その分野事業を推進する根拠となる施策・計画への位置づけが不可欠であることから、計画策定段階への住民参画は重要な協働手法となる。政策への「参加」と事業の「協働(狭義)」の双方を考慮しつつ進める必要がある。こうした計画づくりへの関与から、施策の当事者意識への意識変化を期待し、当該施策決定後も住民関与層を拡大しながら、施策の実現を目指して事業レベルの協働に結びつけることが有効と考えられる。

これまでは、協働事業のプラン化の中で分野課題を抽出してきたが、本来は施策策定の過程で、住民と行政が課題を抽出し合い、当該施策・計画づくりに対して提案し合うことが、その後に期待する円滑な事業協働につながると考えられる。さらに、当該施策立案の過程で、協働によって施策達成効果のあると思われる事業群を導き出しておくこと、次のステップとして具体的な事業協働への進展が容易になる。

このように、協働で「目指すもの」や協働で実施する「効果」を双方が確認し合うことで、事業実施段階になって「決められたものへの住民参加(手伝い)」という不信を招かない効果が期待できる。施策を協働で進める際の留意点としては、次のような事項が挙げられる。

- ア) 総合振興計画(基本計画)との整合
- イ) 住民ニーズ・地域課題の検証
- ウ) 既存又は類似する活動の調査(支援か連携か)
- エ) 住民活動でも行政活動でもなく「協働」で推進する必要性 など

< 施策レベルの協働のしかけ例 >

公募等による各種審議会(法令設置)、分野計画策定委員会(任意設置)、分野施策検討委員会、施策立案ワークショップ等への「参画」

③ 事業レベルの協働の推進(事務事業の企画・実施における協働)

政策提言や施策審議等の「参加」「参画」による行政への関与から、より積極的・具体的な「事業の協働(狭義)」に進むよう推進する。施策の実現に向け、協働で行うと効果があると判断される事業について、企画立案～事業実施～評価の各段階でタイアップするもので、行政と住民が事業目的を共有し、それぞれが果たすべき役割を分担して連携・協力し合うレベルの協働である。

事業スタート後も、随時、住民・行政で当該協働事業の検証をし、必要により軌道修正や次のステップへの展開で新たな住民参加も促進する必要がある。また、地元大学生など、若い力を活用する条件整備も協働の活性化に大きな効果が期待できる。

さらに、事業の性格によっては、行政区・自治会単位や地区 PTA 単位等と連携し、地域活動(エリア型)に定着させるなど、モデル事業等を通して意識的に地域人材を発掘するよう働きかけることも重要である。地域活動に定着した時点で、モデル事業を脱却し、協働形態を変えたり、独立した活動となるよう促すことも考えられる。

今後は、施策の柱Ⅰ「多様な主体(協働パートナー)による連携と協働の展開」を踏まえ、様々な公益団体のまちづくり情報をつなぎ、その知恵と力を効果的にまちづくりに活かす工夫が求められる。活動や人的資源をつなぎ、ネットワーク化することで、まちづくり効果の最大化を図ることを目指す。

そこに行けば他の活動情報が入手できたり、気軽に交流ができる「市民活動支援センター」、又は公益団体が共同で利用する「協働オフィス」等、協働交流拠点の設置が望まれるところである。

< 事業レベルの協働のしかけ例 >

環境保全・緑化推進事業、エコ推進事業、居場所づくり事業、地域福祉見守り事業、農産物直売・観光 PR 事業、自主防犯事業、自主防災事業、交通安全啓発事業、文化・スポーツ振興事業、地域国際交流事業等、まちづくりネットや公共的団体・機関、実行委員会等との「事業協働」

(2) 協働の多様な取組みに対応できる町推進体制の整備

町協働推進本部では、これまでも様々な企画で協働職員研修を実施し、座学中心ではなく、ファシリテーションやプレゼンテーションの能力を向上させ、協働の推進に寄与しようとしてきた。ファシリテーションについては、実際に住民と合同のワークショップの場面になると、住民がファシリテータとなるケースが多く、成果が発揮されることが少なかった。プレゼンテーションについては、「まちづくり懇話会」や「事業の仕分け」において少しずつ研修成果を活用する場面が出てきた。

今後も引き続き、住民参加促進の一環として（説明責任も含む）、職員の意識改革や政策形成能力、提案力の向上を図るとともに、地域課題の解決に向けて住民と対等に提案し合い、又はコーディネートできる職員の育成と柔軟な本部体制の構築を目指すこととする。

【推進する取組み】

- ①行政活動への住民関与及び住民の協働提案の促進
- ②職員の意識改革と政策提案の活性化、プレゼンテーション能力の向上
- ③地域課題に応じた町協働推進本部体制の柔軟な再編（10章(5)参照）

(3) 自治基本条例制定を見据えた取組み

平成22年には「議会基本条例」が制定・施行されたところであり、また、平成23年の地方自治法改正により基本構想策定の自治体義務付けが削除されたことなどを受け、現行の協働のまちづくり条例をベースにしながらも、より高次の住民自治のまちづくりに高める機運が高まってきた。

政策研究所における研究成果を踏まえつつ、草案作成の過程そのものが正にまちづくりの根幹であることを念頭に置いて、参加・協働を前提とした学習や検討を進める必要がある。

条例内容の例としては、住民と長（行政）と議会の関係、総合計画や行財政改革の扱い、住民投票などの条項が考えられるが、町の最高規範として、多様なまちづくりの主体者が将来にわたって運用でき、住民一人ひとりの自治意識が一層高まるよう、検討を進めていく必要がある。

【推進する取組み】

- ①政策研究成果のステップ移行と時間をかけた草案検討
- ②草案検討における多様なまちづくり主体の関与促進

10章 施策の柱Ⅲ 関連の推進施策

◇◇◇◇ 施策を推進するしかけの整備・促進（制度・基盤・体制） ◇◇◇◇

（１）情報共有

住民参加や協働は、まちづくり情報の共有がなければ進めることは不可能である。協働のまちづくり条例の施行以来、行政情報の公表は大きく前進し、情報公開条例に基づく公開規定にとどまることなく、積極的に行われるようになってきた。しかしながら、必ずしも住民が求める情報がわかりやすく提供されているとは言い難い状況も散見される。

今後、施策の柱Ⅰ・Ⅱに示すように、「協働主体者の広がり」と「協働レベルの深まり」を進めるためには、まちづくりを念頭に置いた情報共有のあり方として、量から質への転換が検討される必要がある。

さらには、住民主体のまちづくり活動相互の協働（コラボレーション）を促進していくためには、行政情報に限らず、多様なまちづくり情報の収集と提供も重要になる。

なお、まちづくりに伴う個人情報については、福祉情報など特に慎重な扱いが求められるところだが、委縮することなく、活動主体に必要不可欠な最小限の情報共有については、粘り強く地域への理解を促していく必要がある。

【推進する取組み】

- ①まちづくり懇話会の効果的運用
 - ・施策テーマ、開催対象エリア等の検討
- ②出前講座制度の整備
 - ・各課施策テーマによる出前講座のしくみ検討
- ③多様なまちづくりの情報ステーションの検討（ホームページ等）
 - 10章(3)①「人材と活動のマッチングシステム」参照
- ④パブリックコメント制度の効果的運用
- ⑤会議公開制度の周知と活用

（２）段階に応じた住民参加

前項により、一定の情報共有が図られている前提において、政策・施策・事業の各レベルで有効な住民参加段階（研究、企画、実施、評価）が検討されることになるが、政策や施策への参加はそもそも研究や企画、評価に適したものであるのに対して、事業は企画から実施、評価に至るまで一貫した住民関与が可能である。政策や施策への住民参加の過程で抽出される事業群が、

- ア）住民と町が協働で進めるべき事業

イ) 住民の主体的な活動として促進すべき事業（住民相互の協働も含む）
ウ) 町が直轄で実施すべき事業

エ) 町の監督指導のもと事業者委託で進めるべき事業 等に分類されることによって、事業協働に進むべきポイントを絞り込むことができる。

ア) の事業協働では実施段階だけの住民参加は避け、企画・運営・評価に至るまで当事者責任として住民が関与できるよう努めることが望ましい。

なお、このような事業協働へ導くための施策協働では、地方自治法や条例に基づく審議会に限らず、積極的に住民参加型の検討委員会を立ち上げるなど、当該計画や施策の方向性を住民参画のもとで検討していくよう努めることとする。

以下のしかけを積極的に活用して住民参加・協働を促進する。

【推進する取組み】

- ①政策・施策の研究、提言、立案への住民参加・参画の推進
 - ・政策研究所
 - ・意見交換型世論調査
 - ・審議会等委員公募制度
 - ・分野計画、主要施策、行政改革等の策定検討委員会
 - ・ワークショップ（基本構想を含む計画等の策定） 等
- ②事業の企画・実施への住民参画及び事業協働の推進
 - ・協働アクションプラン策定
 - ・ワークショップ（事業の企画や見直し）
 - ・事業サポーター
 - ・企画運営委員会、又は実行委員会
 - ・公募型補助金制度（公益事業提案を含む）
 - ・住民提案型事業委託（団体等の提案に基づく事業採択～団体委託） 等
- ③評価制度の活用推進
 - ・事務事業評価結果（内部評価）の公開
 - ・事業の仕分け（外部評価・見直し提言）
 - ・住民モニター制度
 - ・住民意識調査（施策満足度のモニタリング） 等

（３）まちづくり人材のマッチングと活動組織の体力強化

二の足を踏んでしまいがちなまちづくり活動への「はじめの一步」を応援して初心者の意欲を喚起し、まちづくりの担い手となる人材をストレスなく活動組織につなぐため、双方向の情報提供（つながり支援）システムの開発検討や体験学習機会の増加を図る。また、NPO 等公益団体の法人化を促進するなど、自立基盤の確立や体力の強化を支援する。

【推進する取組み】

①人材と活動のマッチングシステム

各部門のまちづくり活動メニューを相互リンク化して、「まちづくり情報ステーション」等をインターネット上で構築し、「活動を探す個人」と「担い手

を「探す組織」を、各種公共窓口でつながり支援・紹介できるシステムを検討する。

② 公益活動を行う団体の法人化促進

協働の主体者である各種の公益団体が、自ら市民権を獲得し、経済的な基盤をもって、自立した「新しい公」として発展していくには、NPO 法人、社団法人等の法人格取得もひとつの選択肢として検討が望まれる。こうした団体の自立基盤の確立によって、町の「協働パートナー」として、一層、対等な立場で共に公共的活動を進めることが容易になる。

③ 初心者向け学習会・体験研修の企画

これからまちづくりに参加しようか迷っている住民は、既に活躍しているメンバーへうまく溶け込めるか、自分の考え方と違うのではないかと、といったことで躊躇している可能性が高い。

活動への参加を待つだけでなく、初心者向けにプログラムした「体験イベント」や「学習会」等の計画も有効と考えられる。特定の分野に特化した企画はもちろん、施策の柱 I で示したように、類似した活動のコラボレーションによる体験学習プロジェクト等も相乗効果が見込めるものである。町の分野施策と一致した活動であれば、まちづくりへの住民参加の拡大を支援する観点から、協働推進本部としても「出前講座」制度と連動させるなどして、積極的な連携が必要である。

(4) 協働推進のための基盤整備

協働が円滑に展開されるためには、「ヒト」だけでなく、「モノ」や「カネ」も避けては通れない重要なバックボーンとなる。協働財源や協働拠点については、町の第 4 次行政改革大綱でも触れられているが、こうした基盤整備の課題も協働で解決されていくことが望ましい。

また、協働のまちづくり条例制定から 4 年が経過しようとしており、条例の理念を実現する方法を具体化した施行規則には、経過とともに見直しをかけることも必要になっている。

【推進する取組み】

① 協働のまちづくり基金の設置検討

現在、協働事業の経費は、町協働推進本部のもと各協働事業担当課における事業予算と国・県・法人等の助成制度を活用しながら捻出してきた。それぞれの財政事情が厳しさを増す中で、協働事業に充てる原資についても協働で生み出すことを検討する必要がある。「汗を流す協働」と「資金提供による協働」が両輪として機能すると、みんなで支え合うまちづくりとして、より幅の広い活動が期待できる。例えば、事業者（企業）の社会貢献として、協働のまちづくりに寄与する選択肢が広がることにもなる。

なお、資金提供者が分野や活動を指定する「分野指定寄付」等のしくみも有効である。さらに、資金提供者や第三者によって、基金を活用する活動を選定したり、活動を評価したりといった、「協働基金事業選定・評価委員会」等による公正で透明性の高い基金運用のしくみも必要になってくる。

② 協働拠点の整備検討

まちづくりネットのみならず、各種まちづくりの活動の主体者が一体となって協働の効果を発揮するためには、協働サポートセンターや市民活動支援

センターといった住民のまちづくり活動拠点、情報交流発信拠点（協働による管理等）が必要になってくる。センターを総合拠点としつつ、関係機関と調整しながら、集会所や公民館等を活用したサテライト拠点の位置づけも重要になる。

さらに、将来的には協働オフィス（NPO等の共同事務所）的な活用も視野に入れておくことが望ましい。

③ 協働のまちづくり条例施行規則の一部改正の検討

本計画に基づき新たな協働施策の展開を推進するため、「協働のまちづくり条例施行規則」に掲げる「住民参加の方法」や「協働を推進する組織」等について見直しをかけ、必要に応じて新たな方向性を加味したものに一部改正することも検討する。

（５）柔軟な協働推進体制の構築

施策の柱Ⅰ「多様な主体による連携と協働」の実現に向けて、協働推進本部もまちづくりネットも、再編を含めた柔軟な組織体制づくりが求められる。

【推進する取組み】

① 協働のまちづくりネットワーク（まちづくりネット）の組織体制の検証

協働のまちづくり条例施行規則に規定する住民主体の協働推進組織で、健康福祉グループ、みどり環境グループ、都市安全グループ、産業観光グループ、教育文化グループで活動してきたが、グループ編成は今後の分野課題や進め方によって柔軟な再編を考慮する。なお、施策の柱Ⅱ「多様なレベルでの協働展開」に資するよう、新たに企画総務分野の追加も研究が必要となる。

また、施策の柱Ⅰ「多様な主体による連携と協働」に向けて、他のテーマ型住民活動（NPO等）との対等な連携・協働を推進することが必要となる。さらに、これまで以上に行政区等の「エリア型まちづくり活動」との連携を進める必要がある。

※まちづくりネットには規約上、グループ代表等によって各グループ間の調整を図るため運営委員会が置かれ、その事務を執行するため正副運営委員長や事務スタッフ等により事務処理委員会が設けられている。

② 区長会との協働の促進

地域コミュニティを代表するものとして、14の行政連絡区（行政連絡区の設置及び区長、副区長の組織並びに運営に関する規則）があるが、さらに行政区間の均衡・調整・連携を図ることを目的とした組織として、区長等による「三芳町区長会」が設置されている。

本計画においては、エリア型（地縁型）まちづくり活動を行う重要な協働推進組織として、区長会を位置づけることとする。

③ 協働推進本部体制の検証

協働のまちづくり条例施行規則に規定する町長を本部長とした協働推進組織で、要綱設置の行政改革・協働推進本部中、町長・副町長・教育長及び協働担当課長をメンバーとして構成する。本部の下部組織として、協働事業分野を主管する担当係長等により協働推進部会を設置し、本部の指示のもと、まちづくりネット各分野グループとすり合わせを行い、役割を分担して事業活動を企画実施する。

今後は、他の公益団体との積極的な協働事業を検討するとともに、地域課題の変化に対応した協働メニュー（アクションプラン等）の組み換えに伴い、本部や推進部会に属する協働担当の柔軟な再編も考慮する。

④協働推進会議の多様性確保

①②③及びNPO、公共的団体・機関等の協働主体者により構成し、協働推進計画の進行管理や見直しのほか、各種まちづくり活動の連携を推進する。各協働主体者間のまちづくり協定等も視野に協議を進める。

11章 協働アクションプラン 2012 の策定について

第2次協働のまちづくり推進計画を受け、主として事業レベルの協働の取組みについて、別途「協働アクションプラン 2012」を定めるものとする。プランは協働のまちづくり推進計画の下位計画に位置付けるため、同一期間とし、毎年度ローリング可能とする。

本プランは、推進計画に掲げる「政策協働」「施策協働」「事業協働」のうち「事業協働」のプランについて、まちづくりネットと協働推進本部（各担当行政）の間で取りまとめたものである。平成23年9月25日開催の「MIYOSHIまちづくり工房」で行われた公開のまちづくりワークショップを経て、分野ごとにまちづくり課題を整理し、事業プランを立案した。

なお、今後は、まちづくりに関心を持ちながら参加の機会をうまく見つけられない住民層に対して、楽しみながら輪に入っていける工夫を凝らした初心者向け企画を重点的に検討し、担い手の増加に貢献する必要がある（施策の柱Ⅰ関連）。

また、まちづくりネットの枠組みで従来困難であった、企画財政や国際交流、男女共同参画等の課題を取組み対象とする企画総務部門の創設も検討するなど、協働レベルの深まりも考慮していく必要がある（施策の柱Ⅱ関連）。

さらに、課題によっては複数グループがコラボレーション事業に取り組んだり、企画によっては他の公益団体との合同プロジェクト等も検討する。

まちづくりネット設立時（H20.9.28）の資料「協働のまちづくりネットワーク活動の考え方」には、次のように記されている。

「まちづくりネットの事業には、直轄事業とつながり支援事業が考えられ、メリハリのある協働事業メニューの作成が有効である。」

「モデル事業は、住民参加のきっかけづくりであり、他にもまちづくりネットが取り組むべき分野課題があることを考慮すると、モデル事業を日常的な協働活動として今後も継続・定着・発展させていくためには、活動の担い手を事業実践の中で育成し、ネットと独立した活動としてバックアップする立場に回る考え方も必要である。」

これらのことから、まちづくりネットの従来分野モデル事業を、そのままの形態で継続させることにこだわらず、事業の進捗状況（担い手育成等）に応じて、グループ直轄事業から、独立したテーマ型NPO活動又はエリア型住民活動に移行させ、他の公益活動との連携を支援して、公益活動ネットワークの構築に寄与することも、「協働のまちづくりネットワーク」の名称にふさわしい活動と考えられる。

今後は、こうした多様な公益活動も枠組みに加えた「協働アクションプラン」に発展させていくことも重要となってくる。

【協働アクションプラン 2012 の主な取組みテーマ】

(1) 全体企画 … <協働の普及と担い手の発掘・育成・連携>

- ①協働のまちづくり啓発学習事業（継続）
- ②まちづくりネット WEB サイト開設検討事業（新規）
- ③他の公益団体との連携推進事業（継続）

協働パートナー：(まちづくりネット) 運営委員会
(協働推進本部) 協働主管課
(公益団体) 大学、区長会、その他関係する NPO、公共的団体・機関 等

(2) 健康福祉分野 … <高齢者が安心して暮らせるまちづくり>

- ①家族介護者支援事業（新規）

協働パートナー：(まちづくりネット) 健康福祉グループ
(協働推進本部) 介護（包括支援）担当課、福祉担当課
(公益団体) 関係する NPO、公共的団体・機関 等

(3) みどり環境分野 … ①雑木林の保全と環境教育事業（継続）

- ②エコライフ推進事業（継続）
- ③花いっぱい運動検討事業（休耕地活用等）（新規）

協働パートナー：(まちづくりネット) みどり環境グループ
(協働推進本部) 緑化担当課、環境担当課、産業担当課
(公益団体) 関係する NPO、公共的団体・機関 等

(4) 都市安全分野 … <安全・安心なまちづくり>

- ①安全安心マップの見直しと活用推進事業（継続）
- ②自転車の安全教育・普及支援事業（新規）

協働パートナー：(まちづくりネット) 都市安全グループ
(協働推進本部) 交通安全担当課、道路担当課、
防犯担当課、学校教育担当課
(公益団体) 東入間警察署、地区 PTA、関係する NPO
等

- (5) 産業観光分野 … <農産物産地としての三芳町知名度 UP>
- ①野菜市開催事業（継続）
 - ②三芳町の知名度アップ事業（新規）
- ※全体プランと連携した WEB サイト検討など
- 協働パートナー：(まちづくりネット) 産業観光グループ
(協働推進本部) 産業担当課
(公益団体) 関係する NPO、公共的団体・機関 等

- (6) 教育文化分野 … <子どもの居場所づくり>
- ①子どもの学習支援事業（継続）
 - ②地域文化の認識・伝承事業（新規）
- 協働パートナー：(まちづくりネット) 教育文化グループ
(協働推進本部) 児童保育担当課、文化財保護担当課、
文化振興担当課
(公益団体) 関係する NPO、公共的団体・機関 等

12章 まとめ

「協働」は、古くからまちづくり活動の様々な局面で地域実践されてきたものであって、決して新しいものではない。しかし、行政が決めたことをお手伝いするタイプの住民参加が主流であったことも、またそれによって一定の成果を得てきたことも事実である。

本計画は、より多くの人々が様々な場面でまちづくりに関与できるよう体系づけようとしたものである。「理屈より実践」というタイプの人もいれば、「しくみづくり」に関心が高い人もいる。素朴に「人の役に立ちたい」という人もいれば、「自治体としての将来」を心配する人もいる。

行政は、住民参加が法的に限界のある審議会・委員会や許認可事務等の行政専管事項など特殊な場合を除き、その活動展開の様々な過程で、積極的に住民参加の機会やメニューを設定し、協働を前提とした施策・事業の進め方に転換する必要がある。

一方で、まちづくりネットや区長会等の協働推進組織が中心となって、各分野の公益団体と地域コミュニティのつながり、そしてまちづくりの担い手の広がりを促進していくことが望まれる。

協働は、大きな目的に向かって「みんなでいっしょにまちづくり」を進めることである。本計画をもとにしつつも、各協働の主体者が、みんなに分かりやすく、関わりやすい切り口を工夫していくことが、住民自らが誇れるまちづくりへの第一歩であり、まちぐるみで「魅力と安心をデザイン」することにつながるものと期待したい。

13章 資料編

【目次】

- (1) 第2次協働のまちづくり推進計画の策定経緯 …P46
 - ①協働推進会議
 - ②MIYOSHIまちづくり工房（まちづくりワークショップのまとめ）
 - まちづくりネット・協働推進本部共催
 - ③住民参加事務事業調査の結果概要
 - 協働推進本部

- (2) 協働のまちづくり条例・同施行規則 …P58

- (3) 協働のまちづくり啓発リーフレット（平成20年6月全戸配布） …P65

- (4) 淑徳大学との連携協力に関する包括協定書 …P67

①協働推進会議（第2次協働のまちづくり推進計画策定会議）

開催日程

第1回	平成23年6月30日（木） 午後1時30分～3時30分
	主な内容 ①5年間の「協働のまちづくり」成果と課題 ②第2次協働のまちづくり推進計画策定方針（案）について
第2回	平成23年12月21日（水） 午後1時30分～3時55分
	主な内容 ①「まちづくり工房」の結果について ②住民参加事務事業の調査結果について ③第2次協働のまちづくり推進計画素案について
第3回	平成24年2月21日（火） 午後1時30分～3時45分
	主な内容 ①第2次協働のまちづくり推進計画素案について ・追加、修正点及び第2期協働アクションプランについて
第4回	平成24年4月27日（金） 午前9時30分～11時15分
	内容 ①第2次協働のまちづくり推進計画素案について

策定委員名簿

1	まちづくりネットワーク (以下まちネット)	山本和男 (座長)
2	区長会	寺尾 雅治
3	淑徳大学	駒崎 久明
4	まちネット(健康福祉)	柄澤 榮
5	まちネット(みどり環境)	原 芳彦
6	まちネット(都市安全)	渋谷 弘
7	まちネット(産業観光)	勝山 均
8	まちネット(教育文化)	藤崎 滋男
9	社会福祉協議会	山崎 百恵 (～24.3)
10	NPO法人ふじみの国際交 流センター	荒田 光男
11	三芳町消防団	鈴木 章記
13	体育協会	鈴木 孝児
14	公募委員	横山八重子

町協働推進本部員		
1	町長（本部長）	林 伊佐雄
2	副町長（副本部長）	森田陽一郎
3	教育長（副本部長）	桑原 孝昭
4	健康増進課長	金井塚和之
5	こども支援課長	江原 豊次
6	都市計画課長	中嶋 昇
7	環境課長	早川 和男
8	道路交通課長	小林 孝好
9	観光産業課長	佐久間文乃
10	文化財保護課長	松本 富雄
11	自治安心課長	伊東 正男
※平成23年度 福祉課長、社会教育課長		

②「MIYOSHI まちづくり工房」

平成23年度 協働のまちづくり学習会

～講演とワークショップ～ (結果概要)

1 趣旨

町在住・在勤の方、まちづくりネット会員、各種団体、役場職員など様々な人が集まりまちづくりへの一歩をふみ出すきっかけとして公開で開催した。また、第2次協働のまちづくり推進計画作成の一環としても開催した。

2 開催日時・場所・来場者数 (まちづくりネット会員・職員含む)

日時	場所	参加者
9月25日(日) 午前10時～15時30分	三芳町総合体育館	63名

3 内容 基調講演 10:00～12:00

「自治と協働って何？」

講師 牧瀬 稔 氏 (町政策研究所アドバイザー)

ワークショップ 13:30～15:30

5分野に分かれて実施 (各分野の詳細は次のとおり)

健康福祉分野

○1人暮らし高齢者対策

- ・(独居高齢者)1人暮らしをあらゆることの相談にのってあげる
- ・1人暮らしの高齢者
- ・1人暮らしの高齢者の把握
- ・すべての人々が住みよい社会(自分も楽しむ)
- ・高齢者で1人暮らしをサポート(支援)する

○コミュニケーション支援・サロン活動

- ・気楽に誰もが立ち寄れる場所を作ろう ●×2
- ・子どもサロン設立
- ・高齢者がいつでもコミュニケーションが取れる仕組み(1人暮らしは寂しい、孤独死を無くす)
- ・隣近所コミュニケーション
- ・高齢者同士の助け合い、高齢者にも役割が必要
- ・高齢者であってもちょっと元気、仕事がある場所を作る
- ・ご近所同士でいつも声かけあえるようにしよう
- ・向こう三軒両隣で、お互いの顔の見えるお互い気遣いあえる関係を作りたい
- ・子どもに気楽に声をかける大人をいっぱいつくろう
- 「おせっかいおばさん復活」
- ・子どもと老人の交流
- ・サロンのメニューづくり

○見守り支援 ●×11

- ・孤立死防止
- ・防災のために老人世帯の人数の調査
- ・高齢者、障害者の安否確認
- ・災害時要援護者=福祉対象の実態把握
- ・孤立者、孤独者の解消
- ・1人暮らしの高齢者の見守り
- ・独居高齢者の安否確認

○健康支援 ●×2

- ・ラジオ体操活動
- ・高齢者の健康
- ・ウォーキングクラブの結成

高齢者の生活支援

よろず支援事業

○日常生活支援

- ・ゴミだし困難、電球等の交換困難、買物が不自由
- ・高齢者の日常の食事 ●×8
- ・買い物弱者への支援
- ・高齢者事業団との連携中間支援(ファミリーサポートセンター的システム)
- ・運転ボランティア
- ・買い物、修理等簡単な助っ人(有料)
- ・元気な高齢者が高齢者を支援するシステム

○個別支援

- ・自治区と地区の社協の連携システム
- ・学校での一泊訓練の実施
- ・社会貢献活動の推進対策の実施
- ・地域病院の設置
- ・社協と一帯化の運動
- ・公園内へトイレ設置
- ・介護者(ケアラー)支援

エコライフDAYの実施内容検討し推進

エコライフ、アンケートの質問内容は次回同じで良

エコライフの基礎、学習の機会を作ろう

エコ運動は、主婦向け・子供向け・ドライバー向けなどに区別する

エコライフ、アンケートの配布方法、回収方法を再考して、次回実施

産業観光Gなどと交流

事業（作業）
ピーアール

花いっぱい運動展開、産業観光グループ、商工会議所と協働

産業観光Gより、みどり環境と交流会をしないかと提案いただいています

平地林が重要なので、植林をする、間伐材の活用、環境学習をする

林保全の技術講習

雑木林を活用した自然学習をしよう

整備後の枝・草の活用

子供達を現地で見学を

植林をもっと多くやって若返りを促進する

雑木林の整備地拡大により、機械導入も検討

集めた木くずで炭作りは

間伐材の活用に住み焼とか〇〇する

エコライフ推進

温暖化防止活動、グリーンカーテンコンテストの開催

エコライフは、自治会との協働

ゴミゼロデーの隔月実施

温暖化防止活動、エコクッキングコンテストの開催

公園整備の手伝い

雑木林の手入れから、公園の手入れに力を入れる

台風の後始末にグリーンサポートも手伝いできないか

公園に緑を

緑の公園づくり

自然を生かしたみどりの公園づくり

総合公園作りの町への提案

広場、ふれあいの森などで菊花展、生け花教室などを企画する

公園、ふれあいの森に住民を引きつけるような工夫設置（健康遊具、東屋コンク製など）

公園の改善提案

ほかのグループ、団体との共催

子どもの環境教育への大人のサポーター、お互いをつなぐコーディネーター

まちづくりネットの組換え、連携事業の統合など

こども又は親子への自然体験プログラムの提供

どんぐり苗木の育成（児童館、公民館との共催）

緑化

休耕地の町民活用の推進

新規事業、未耕作地、耕作放棄地を利用して三芳町イメージアップを考えて緑化を推進

雑木林の老化→ 林の再生をどんぐりの苗木でめざす

みどり環境分野

従来事業の継続・改善

- ・エコライフDAYの実施内容の検討、推進
- ・平地林の植林、間伐材の活用、環境学習
- ・産業、観光グループとの交流 ●×3
- ・公園整備の手伝い ●×4

新規事業テーマ

- ・みどりの公園づくり ●×1
- ・緑化推進 ●×1
- ・エコライフの推進
- ・他のグループ、団体との共催 ●×6

エコライフの推進、区長会との一層の連携

歩いて通りたい道、行ってみたい場には花がつきもの

農地の多い三芳の道は草が多い美しくする一つとして花いっぱい運動

休耕地活用、花いっぱい運動、観光産業G、商工会と協力「みよし花いっぱい咲かせ隊を組織」

どんぐり苗木を育てて、いずれ植林したい

林保全技術講習、刈り払い機、電動鋸 対象GS隊の希望者、講師谷禎月 1回~2回

各グループとの合同まちづくり研究会が必要

地域住民の協力の必要性を無視できない、行政連絡区の協力が鍵

産業観光、農業を通じて交流

花いっぱい運動

休耕地活用 役場 - 地権者交渉
 花種類 - 春菜の花 秋ひまわり
 種活用 - 食用油は販売、給食利用、エタノール（行政で使用）
 種活用の利益の一部を地権者に払う
 作業主体 - みよし花咲かせ隊
 宣伝 - マスコミ活用？
 提供 - 商工会議所 検討

①エコライフ推進→区長会との連携

②花いっぱい運動 休耕地の利用 ●×16

③関連グループ間の話し合いの場づくり

重要テーマ

- 1) 自然を活かした公園づくり
- 2) 雑木林（やま）の活用と環境教育
- 3) エコライフの推進

都市安全分野

歩車道の整備

歩道の整備

歩道バリアフリー化(段差をなくす)

高齢者に安全な歩道の整備(車椅子でも可能な)

住宅地の道路整備

車いすが通りづらい道が多い

歩道の幅が狭い

三芳町全体で町道の幅が短いです

安全な歩道(車と歩行者の分離)

歩道がない道に大型トラックが通る

信号機

学校近くに歩行者信号がない心配

信号機の設置を

交通安全の信号機の設置を

防犯

街灯の整備(明るい道路)

町内全体に防犯灯が暗い

交番は、どこにあるのかわからない

地域への細かい呼びかけが町ではできない

農道に電燈をつけてほしい、点滅機(?)等で

夜間パトロール隊

自治会活性化

いつも隣近所で話し合いのできるまちづくり

自治会脱退等があるが、防災意識がないのか?小さいのか?

自治会脱退者の増加により、地域防災活動は自分たちで守ることが必要

高齢者でもできる協力方法は

その他

子どもの放射線からの守り、公園等の測

大きな自治体ではないので、目(声)が届きやすい

三芳町に花が少ないと思う

交通安全教育

自転車の交通マナー

自転車の乗り方マナーの講習会(右側通行、子ども2人含む、3人乗り)

電動車椅子危険(急に向きを変える)

交通安全教育を

裏道を自動車やタクシーがとばしている

安全施設の整備

街路樹が多いので、カーブミラーが良い位置に設置できない

路面標示が薄いところを担当として把握できていない

都市計画道路の車止めが多すぎる

通学路の整備を

通過交通が多い町である

通学路の時間帯規制を緩めること

道路標識が見えないところもある

防災

災害時の食料の各区で心配

自主防災組織を

集会所の耐震診断を実施

緊急放送が聞こえない

地域の詳細な情報を町では、把握できない

町の防災計画の中で町民側でできる

町での災害避難訓練が少ない

避難支援活動のための支援マップ作りが必要では

70歳以上の独居生活の見守り

防災対の強化を

ハザードマップや避難誘導道路の作成

地域防災活動を活発にさせる活動

帰宅できなくなったとき泊る場所がわからない

避難場所をしらない

消火栓の標示が消えている

どこ地盤が弱いかわからない

安全・安心マップの見直し継続

老人対策

庁舎が藤久保地点より遠いため足が不便である

体力弱い人の買い物等の交通手段

都市安全分野 ※課題ごとに検討

- 1 歩車道の整備 ●×3
 現状：全体的に狭い。歩道がない。車いすが通りにくい。
 課題：用地確保が困難。町全体の交通体系が検討されていない。(現地把握)

協働は
むり

- 2 交通安全の問題 ●×8
 現状：自転車のマナーが悪い
 課題：自転車の安全教育(特に成人に対して)

テーマ候補

- 3 信号機設置の件
 現状：区画整理のスピードについていけない
 課題：タイムリーに要望書提出と

協働は
むり

- 4 道路安全施設の整備
 現状：通過交通が多い。標識が見えない。カーブミラーが見にくい。
 路面標示が消えている。(現状把握)
 課題：町全体の標識の点検

協働は
むり

- 5 防犯関係
 現状：全体的に暗い。交番のありかが不明。
 課題：防犯灯の全面的見直し

現状
把握

- 6 防災関係 ●×2
 現状：高齢者等、弱者救済のしくみが不備、緊急放送が聴きにくい。
防災教育の不足。
 課題：災害避難訓練の実施回数を増やす。地区毎の支援マップ作成。

有力テーマ候補

- 7 自治会活性化
 現状：脱退者が多い。高齢化
 課題：防災意識が薄い。隣近所の付き合いの親密化

- 8 老人対策
 現状：体力が弱い人の買い物手段がない。庁舎への足がない(不便)。

現状
把握

- 9 その他(小規模意見)
 現状：放射能測定の要望。町の中に花が少ない。

都市安全分野

〈テーマ1〉 防災（減災）活動 ●×8

事業名 小規模単位の避難支援マップの作成

概要 50世帯を1単位とした高齢者、要援護者の把握マップ

協働相手 地域振興課、社会福祉協議会、自治会

事業名 災害避難訓練回数の増加(広域1回/年、各地域で1回/年)

概要 上記のとおり

協働相手 消防本部、地域振興課、自治会

〈テーマ2〉 交通安全教育 ●×6

事業名 自転車の安全教育

概要 特に大人や高校生以上の方々への安全教育への実施

協働相手 警察、学校、地域振興課

産業観光分野

54

○観光への取り組み

三芳の歴史を知りたい

観光を推進してどんな利益があるのか？

町の情報発信が不足

観光業の推進

歩ける観光

観光資源が乏しい

安心して歩ける道をつきたい

三芳町に何かがあるのかわからない

公共施設のテレビで町の情報を常に映し出す

地元情報の配信が弱い

三芳の観光何があるのか

映画ロケ地してあるか？

自転車で楽しめる

三芳のみどりをこれ以上なくしたくない

三芳町のツアー企画するとしたら何が？名所・景色

知らない。(すばらしい土地でいいものがあるが、知名度が低い)

バス等公共交通

自然にやさしい町づくり

散策ルートを決定し、定期的に開催して見所をPR

もっとパーキングエリアを活用したほうがいい

○観光と農業のコラボ

●×2

観光の促進による野菜(加工品含む)の販売

地元の農産物をもっと地元の人に知ってもらいたい

観光農業は？

道の駅(産直店)ができないか

農家レストランのようなものを作ってはどうか？最初は、お祭りなどでコンテストメニューを出して、顧客の反応をみる。

農業イベントはいいと思う

体験農業の進め

○野菜市展望は？

●×1

みよしの野菜どんなものがあるのか

農家主体の産業観光グループ

三芳PAの活用できないか

地産地消の取り組み

値段が安くなった野菜などは、消費者にとってはうれしい

高齢者のための地元野菜の引き売り

農家の参画

野菜市を顔の見える化に(対面販売)

B級品野菜のとりくみ

野菜B級を低価格で販売する

○加工品の推進

●×3

地産地消で全て表れる

B級品の活用方法

上富の農業センターに直売店を設けてはどうか？観光客の多い時だけのスポット的なもので良いが、農家へ誘導する案内所としても活用できる

B級グルメ取り扱い店の拡大

土産品を本グループで作成したい

B級品の商品化(加工品)

加工品、さつま芋を使った加工品。たとえば、保存のできる焼き芋など

加工品販売店の充実

三芳でとれた野菜で、名物を

ネット販売(野菜)(加工品)

○若い世代の参加

若い世代が、まちづくりメンバーにいない

後継者育成

若い人の不足、消費者生産者をどう集めるか

参加者・参加者が少ない

産業観光分野

? 次の事業何にするか?

○若い人との協力体制 ●×5

大学との協働を考える

(観光経営学科創設に伴う協力体制)

農業後継者の若手とのつながり

○野菜市の充実 ●×8

方法として

・販売拠点の増(移動販売)

・みよしっ子野菜のブランドを売り出す

(地元でPR後、ネットなど拡大の方法を考える)

・加工品 (B級グルメを含む)

・農家との交流

○三芳の観光 ●×12

散策ルートの開発

(サイクリングロードの整備)

町の情報発信を活発に

教育文化分野

文化 ●×2

文化活動の活性化

三芳の文化、認識（何があるか）、伝承（これから）

社会教育など

社会教育と生涯学習

生涯学習、運動で頭も体も元気で過ごせるように

（中学）部活に外部指導者を

（小学）クラブ活動にも外部指導者を

体系的な市民講座がほしい

学校教育の支援活動

子どもと大人外国の方に対して

すばらしい事業もPR不足

近隣のコミュニケーション不足

外国人の日本語教育

スポーツ振興 ●×2

生涯スポーツの普及

スポーツの大会などを企画してもいつもおなじ人しか集まらない

高齢者向けスポーツの普及

生涯スポーツの充実（高齢者スポーツ対策）

子どもたちの体力の低下が感じられる。

体育施設の充実と利用

体力の低下

三芳小の体育館の開放

体育館のフィットネスの参加者が増えてきた

ボランティア ●×10

ボランティアの育成

コーディネーターがない

様々なボランティアが横のつながりを持つ

誘いあつての声かけが難しい→声運動

活動メンバーが増加しない

地域と学校（諸機関、施設）をつなぐコーディネーターが必要

体験活動（環境）教育を支える大人の支援者

子どもへの学習支援

学校と児童館（学童）の協力

地域の自然を楽しめるようなプログラム

地域での子どもの成長を見守る→居場所を含めて

「寺子屋」の経営を充実させるプランを考えて下さい。

放課後、子ども教室のあり方

子ども達への環境教育や地域性をいかした体験活動の機会が少ない

子どもの環境教育（地域性）

学校応援 ●×2

学校応援団の充実

学童応援団は必要か？

家庭教育 ●×3

不登校児童の相談

不登校の子供がまだ多いのでは

家庭教育の強化

子どもの躰

・町の財政削減の為の協働があるか

・子ども（青少年）の地域参加が少ない。

・市民ニーズ対応した協働ができている？（行政側・市民側のニーズ把握ができているか）

③住民参加事務事業調査の結果概要

分野		①住民参加又は団体委託の状況					②住民参加手法の内訳										主な事務事業名
		住民主体	住民参加	団体委託	協働★(新)	委員公募	研究★(新)	企画立案	運営	実施	実行委員会	WS又は意見交換会★(新)	評価	単純補助	その他		
政策	◎現状も今後も○現状		7			1	1	2				2	4			まちづくり懇話会、町補助金公募制度、政策研究所、意見交換型世論調査、	
	●今後検討		5			1		3					2			行政評価、みどりの三富地域づくり行政連絡事務、指定管理者制度	
広報	◎現状も今後も○現状			1											声の広報作成		
	●今後検討		1					1							広報の取材		
総務・管財	◎現状も今後も○現状		1	1		1									特別職報酬等審議会、庁舎等敷地除草業務		
	●今後検討		1						1						町単独による職員研修		
人権・平和・共同 参画	◎現状も今後も○現状		3	2	2	2		4	4	7					国際親善、「共に生きるセミナー」開催、情報誌「まなざし」発行、外国人生活相談		
	●今後検討		1				1				1	1			国際平和		
協働	◎現状も今後も○現状	1	1	1	1	1		3	2	3	2	1			協働のまちづくり住民ネットワーク支援、協働のまちづくり学習会		
	●今後検討				1										淑徳大学との連携		
自治	◎現状も今後も○現状	2		2				2	4	2	1				彩の国コミュニティ協議会、みよしまつり、集会所利用申請事務、集会所管理運営等		
	●今後検討																
防犯・防災	◎現状も今後も○現状	3	1					1	1	1			1		防犯活動支援、地域防犯パトロール支援、自主防災組織支援、防犯灯の設置管理		
	●今後検討																
スポーツ	◎現状も今後も○現状	2						3	3	3	3				学校体育施設開放事務(利用調整会)、体育施設利用調整事務		
	●今後検討	4		1		3		2	2	1	1				体育祭等団体事業支援事務、(仮称)スポーツ基本計画の策定、生涯スポーツ活動促進事業事務		
福祉	◎現状も今後も○現状	1	1	3	1			2	3	2	1			1	日本赤十字社に関する事務、聞こえに関するシンポジウム、社会福祉協議会補助、埼玉県入間東地区福祉有償運送運営協議会		
	●今後検討																
高齢者	◎現状も今後も○現状		3	6											老人デイサービス事業、老人保護措置事業、在宅介護支援センター運営委託、ゲートボール大会(春季・秋季)		
	●今後検討																
介護	◎現状も今後も○現状	1	7	2		3		1	3	2				1	7	介護相談事務、地域包括支援センター運営協議会事務、いもっこ体操事業、認知症サポーター養成事業	
	●今後検討																
健康	◎現状も今後も○現状	3	4	18		1		5	5	2					13	特定健康診査、後期高齢者健康診査、個別検診・生保健康診査、予防接種・高齢者インフルエンザ、妊婦健康診査、休日急患診療所運営事業、三芳医師会、食育、赤ちゃん全	
	●今後検討																
子育て	◎現状も今後も○現状	11	9	3		2		1	2	5	1		1	3	10	りんりんネット、児童虐待防止発生予防事業、三芳町次世代育成支援対策地域協議会、三芳町ファミリー・サポート事業、保育所事業(絵本読み聞かせ等)	
	●今後検討	2	30					3		3				25		児童館運営事業、学童運営事業	
環境	◎現状も今後も○現状	4		1	1	1				3					1	ごみゼロ運動、不法投棄防止看板設置等事業、不法投棄処分事業	
	●今後検討	2				1					1					三芳町広域ごみ処理施設等検討委員会、エコライフDAY	
産業	◎現状も今後も○現状	5			1						4					産業祭、世界一の芋掘り大会、協働のまちづくり産業観光グループ	
	●今後検討															産業祭に関する事務	
交通	◎現状も今後も○現状	2	4	2		1		1	2	3					1	三芳町交通審議会、街路所等維持管理、花壇植栽委託、東入間交通安全協会三芳支部、三芳町交通安全母の会	
	●今後検討		1					1								サイン計画実施事務、屋外広告物の簡易撤去	
都市計画	◎現状も今後も○現状	1	1	4		1		1	5	5						市民管理協定(里の山守)管理事業、子供広場管理運営事務、都市公園等清掃管理業務委託、都市公園花壇植栽業務委託	
	●今後検討	1	2					1	1	1			1			地区計画、建築協定、公共下水道事業(再評価)	
学校	◎現状も今後も○現状	6		2				5	2	5					1	中学生社会体験チャレンジ事業、防犯対策(児童・生徒)強化事業、自主防犯パトロール事業、部活動ボランティア指導員配置事業、児童生徒及び教職員健康診断事務	
	●今後検討	2				1		1	1	1	1	1				通学路、学校評価	
青少年	◎現状も今後も○現状	13	4					9	1	8	1			5		青少年問題協議会事務、ボランティア活動支援センター事務(ジュニアボランティア育成事務)、非行防止パトロール支援事業、青少年育成推進員活動支援事業	
	●今後検討	3	4					1						3		子どもドッジボール大会審判講習会事務、町民会議運営事務	
文化財	◎現状も今後も○現状	2	3					2	3	3						郷土芸能伝承活動事業、郷土芸能保存協議会運営、三富塾活動ボランティアの会運営	
	●今後検討					1		1	1	1	1					文化財保護審議会、文化財および資料館等における教育普及活動	
社会教育	◎現状も今後も○現状	8	2	1		1		5	5	3	4					社会教育委員会議事、文化協会活動支援事務、三芳町人権教育推進協議会事務、町民文化祭実行委員会、文化振興事業、生涯学習関連講座事務(淑徳大学連携事業)	
	●今後検討																
公民館	◎現状も今後も○現状	14	6					6	4	10					3	公民館入門・サークル支援事業、高齢大学、各種公民館事業	
	●今後検討		1						1	7						各種公民館事業	
図書館	◎現状も今後も○現状	2	4					3	3	3					4	ブックスタート、お話し会、ぐりぐらタイム	
	●今後検討		1													絵本と人形の部屋(1.2歳の部、3~8歳の部)	
歴史民俗資料館	◎現状も今後も○現状		2							2					1	イベント開催、来館者案内・解説業務	
	●今後検討		7	3				5		4	2	3			4	資料等展示公開企画、記録写真等撮影、各事業企画・実施	
住民参加等の事業の合計		102	113	50	7	22	2	75	58	90	24	6	11	50	33		
内訳	◎現状も今後も○現状	81	63	49	6	15	1	56	52	72	17	3	6	18	33		
	●今後検討	21	50	1	1	7	1	19	6	18	7	3	5	32	0		

住民参加団体委託事業272事業 ※住民参加の手法の合計371

	割合	住民主体	住民参加	団体委託	協働★(新)	委員公募	研究★(新)	企画立案	運営	実施	実行委員会	WS又は意見交換会★(新)	評価	単純補助	その他	住民参加手法の割合
◎現状も今後も○現状	計73.2%	29.8%	23.2%	18.0%	2.2%	4.0%	0.3%	15.1%	14.0%	19.4%	4.6%	0.8%	1.6%	4.9%	8.9%	73.6%
●今後検討	計26.9%	7.7%	18.4%	0.4%	0.4%	1.9%	0.3%	5.1%	1.6%	4.9%	1.9%	0.8%	1.3%	8.6%	0.0%	26.4%
住民参加の割合		37.5%	41.5%	18.4%	2.6%	5.9%	0.5%	20.2%	15.6%	24.3%	6.5%	1.6%	3.0%	13.5%	8.9%	

三芳町協働のまちづくり条例

平成20年3月12日・条例第1号

前文

三芳町は、みどり豊かな環境のもと、多くの先人たちの英知と努力によって歴史と文化がはぐくまれ、ぬくもりを実感できるまちとして発展してきました。人々のくらしと自然が調和した美しい風土は何ものにもかえがたい住民の貴重な財産であり、これを子孫に引き継いでいくことは、私たちみんなの願いです。

この財産を守り育てるとともに、自立した活力のあるまち、住民自らが誇れる魅力あるまちとしてさらに発展していくために、私たちは、なお一層努力していかなければなりません。それには、より多くの住民がまちづくりの主役として参加し、住民と町が「パートナー」として信頼関係を築き、それぞれの役割を認識し合いながら、協働でまちづくりを進めていく必要があります。

住民一人ひとりの感性や豊かな経験がまちづくりに活かされる環境を目指して、様々な立場の住民がまちづくりの情報を共有し、様々な場面で知恵と力を出し合い、尊重し合って主体的に行動することをまちづくりの基本とするため、この条例を定めます。

目的

第1条 この条例は、住民と町の協働によるまちづくりに関し基本的な事項を定めることにより、まちづくり活動への住民参加を促進し、住民自治の実現に寄与することを目的とします。

定義

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによります。

- (1) 住 民 次に掲げるものをいいます。
 - ア 町内に在住、在勤又は在学する個人
 - イ 町内で事業を営み、又は活動を行う個人、法人その他の団体
- (2) 住民参加 住民が自らの意志を反映させることを目的として、町の施策・事業の企画立案、実施又は評価の過程に主体的に関わることをいいます。
- (3) 協 働 住民と町がそれぞれ自らの果たすべき役割を自覚して、対等の立場で協力し合い、補完し合って行動することをいいます。

基本理念

第3条 まちづくりは、次の各号に掲げる理念に基づき、協働で行われることを基本とします。

- (1) まちづくりは、住民参加の機会が平等に与えられるように進められなければなりません。
- (2) まちづくりは、住民と町が情報を共有し、役割と責任を分担しながら進められなければなりません。
- (3) まちづくりは、住民と町が対等なパートナーとして、相互の立場を尊重しながら進められなければなりません。

住民の権利

第4条 住民は、町政の情報を知る権利、町政に参加する権利及び町政について学ぶ権利を有します。

住民の役割

第5条 住民は、まちづくりの当事者として、まちづくり活動への積極的な参加と良好な地域コミュニティの形成に努め、協働のまちづくりに協力します。

町の責務

第6条 町は、町政運営に当たって、住民参加の機会を確保するよう努めなければなりません。

- 2 町は、町政に関する情報を積極的に、かつ、分かりやすく住民に提供し、住民がまちづくりに参加しやすい環境づくりに努めなければなりません。

個人情報

第7条 住民と町は、三芳町個人情報保護条例に基づき、協働のまちづくりの推進過程で生じる個人情報を適切に取り扱わなければなりません。

議会の役割

第8条 議会は、住民の意思が町政に適切に反映されるよう調査及び監視を行い、総合的な観点から政策を審議して町の意思を決定します。

住民参加の方法

第9条 町は、協働のまちづくりを推進するため、住民参加の方法等を規定した制度を定めます。

協働推進体制

第10条 町は、協働のまちづくりを推進するため、委員会その他の必要と認める組織又は機関を設置します。

協働推進計画

第11条 町は、協働のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するため、協働推進計画を策定しなければなりません。

2 町は、協働推進計画を策定し、又は変更したときは、速やかにこれを公表しなければなりません。

その他

第12条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定めます。

この条例は、平成20年6月1日から施行します。

協働のまちづくり条例施行規則

【趣 旨】

第1条 この規則は、三芳町協働のまちづくり条例(以下「条例」といいます。)第12条の規定に基づき、条例の施行に関し必要な事項を定めます。

【法人その他の団体】

第2条 条例第2条第1号イの法人その他の団体は、営利法人のほか、次の各号に掲げるものとします。

- (1) 行政連絡区、自治会等の地域コミュニティ組織
- (2) NPO、農業協同組合、生活協同組合、社会福祉協議会等の公益的法人又は団体
- (3) 大学、幼稚園等の教育研究機関
- (4) まちづくり活動、ボランティア活動等を主な目的とした地域団体又はサークル
- (5) その他政治、宗教又は営利を目的とせず、自発的かつ自立的に公益活動を行う集団

【地域コミュニティ】

第3条 条例第5条の地域コミュニティは、行政連絡区、自治会その他の近隣社会とします。

【住民参加の方法等を規定した制度】

第4条 条例第9条の住民参加の方法等を規定した制度は、次の各号に掲げる住民参加のしくみとします。

- (1) 住民と町がまちづくりの情報を共有し、又は住民から広く意見を聴く住民参加のしくみで、次に掲げるもの
ア まちづくり懇話会
町の重要な計画、施策・事業その他町政全般について住民と町長が意見交換を行う制度

イ 情報公開制度

三芳町情報公開条例に基づき、町の保有する情報を住民の請求により公開するほか、広報やホームページ等を利用して情報を積極的に提供する制度

ウ 出前講座等まちづくり学習制度

住民の要請により、町職員を住民が主催する集会、学習会等に派遣して、まちづくり学習を支援する制度

エ 審議会等会議の公開制度

地方自治法第138条の4第3項に規定する執行機関の附属機関及びこれに準ずる機関の会議を住民に公開する制度

オ 地域懇談会

町が主要な計画又は施策・事業を策定する際に、住民に内容の説明や情報提供を行い、住民の意見を広く聴き、当該計画又は施策・事業に反映する制度

カ 町長への手紙

住民の視点からまちづくりの課題を直接町長に提案する制度

(2) 町が政策等を形成する過程に住民の参加を促進するしくみで、次に掲げるもの

ア パブリック・コメント手続制度

三芳町パブリック・コメント手続条例に基づき、町が基本的な方針若しくは計画を策定し、又は条例若しくは規則の制定等を行う際に、住民の意見を広く募集し、これらに反映する制度

イ 審議会等委員公募制度

町が第1号エに規定する会議の委員を任命する際に、構成委員の一部又は全部を広く住民から募集する制度

ウ まちづくり提案制度

町がまちづくりのモデルとなる事業等について、住民から広く提案を募集し、これらの提案のなかから補助、委託等により事業を実施し、住民の地域コミュニティや自主的なまちづくり活動を支援する制度

エ ワークショップ手法等による施策立案会議制度

町が主要な施策・事業を策定する際に、住民を公募し、ワークショップ(住民と町が相互に議論等を行うことにより、案を作り上げていく手法をいいます。)等を駆使して当該施策・事業を立案する制度

(3) 町が実施する事業に住民の参加を促進するしくみで、次に掲げるもの

ア 事業の企画委員会又は実行委員会制度

町の事業に住民の視点を導入することを目的として、住民が主体となった企画委員会又は実行委員会を組織し、事業の企画、運営等を一任する制度

イ 事業サポーター制度

町が実施する事業において、当該事業分野に関心が高い、又は精通している住民が当該事業のスタッフとして実践に関わる制度

ウ 協働のまちづくり登録制度

住民の知識、経験等をまちづくりに活かすことを目的として、人材、団体等を登録する制度

(4) 町が施策・事業を評価する段階に住民の参加を促進するしくみで、次に掲げるもの

ア 住民モニター制度

町が実施している、又は実施した施策・事業に対して、住民が感想、アイデア等を寄せる制度

イ 住民意識調査

町が主要な施策・事業を策定するに際し、調査項目を設定し広く住民から意見を収集し、住民の意識の傾向を把握・分析して当該施策・事業に反映する制度

ウ 行政評価制度

町が実施する、又は実施した施策・事業に対して、住民が評価に関わる制度

(5) 前 4 号までに掲げるものを除くほか、条例の目的を達成するための住民参加のしくみで、町長が必要と認めたもの

- 2 町長は、町が実施する施策・事業について、協働による取り組みが必要であると判断したときは、前項各号に掲げる住民参加のしくみから当該施策・事業に適切なものを複数選択して実施します。
- 3 第1項各号に掲げる制度の運用等に関し必要な事項は、他の条例、規則その他の規程に別段の定めがある場合を除き、この規則の施行の日から平成 23 年度までの間を目途に町長が計画的に定めます。

【必要な組織又は機関の設置】

第5条 条例第10条の委員会その他の必要と認める組織又は機関は、次の各号に規定するものとします。

(1) 協働のまちづくり住民ネットワーク

住民を中心として構成する協働推進組織で、まちづくりへの住民参加について情報交流及び支援を行うとともに、町と連携して効果的な協働手法や協働事業について検討し、また、自ら実践することを目的として設置されるもの

(2) 協働推進本部

町職員により構成する協働推進組織で、前号の組織を支援するとともに、条例第9条の住民参加の方法等を規定した制度の策定、協働関連の施策・事業の推進のほか、協働全般について各課の調整及び組織的な検討を行うことを目的として設置されるもの

(3) その他町長が必要と認める組織又は機関

- 2 前項に規定する組織又は機関の組織及び運営に関し必要な事項は、町長が別に定めます。

【委任】

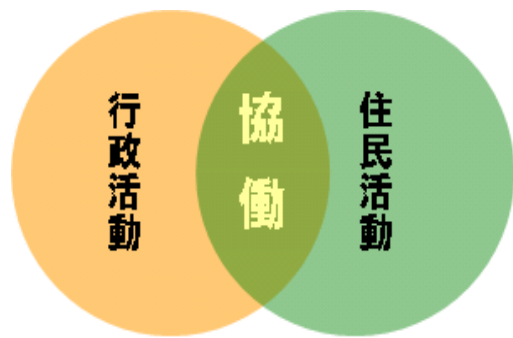
第6条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、町長が別に定めます。

この規則は、平成 20 年 6 月 1 日から施行します。

H20
6月1日

協働のまちづくり条例 施行!

～みんなのまちづくりプロジェクトがスタート～

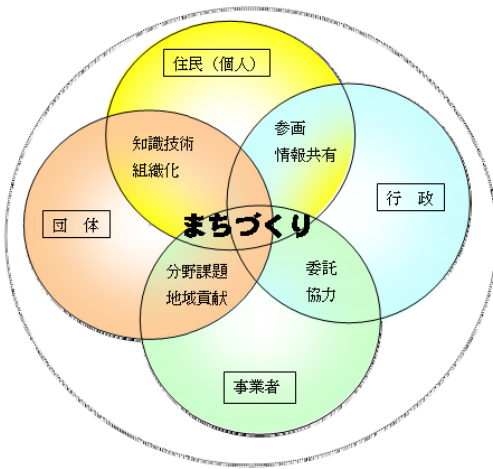


【条例の概要】

「協働のまちづくり条例」は、住民参加によるまちづくりをうたった理念条例であるため、町条例で初めて「前文」を掲載し、親しみやすいよう「ですます調」を採用しました。

(前文) 三芳町は、みどり豊かな環境のもと、多くの先人たちの英知と努力によって歴史と文化がはぐくまれ、ぬくもりを実感できるまちとして発展してきました。人々のくらしと自然が調和した美しい風景は、何ものにもかえがたい住民の貴重な財産であり、これを子孫に引き継いでいくことは私たちみんなの願いです。この財産を守り育てるとともに、自立した活力のあるまち、住民自らが誇れる魅力あるまちとしてさらに発展していくために、私たちはなお一層努力していかなくてはなりません。それには、より多くの住民がまちづくりの主役として参加し、住民と町が「パートナー」として信頼関係を築き、それぞれの役割を認識し合いながら、協働でまちづくりを進めていく必要があります。

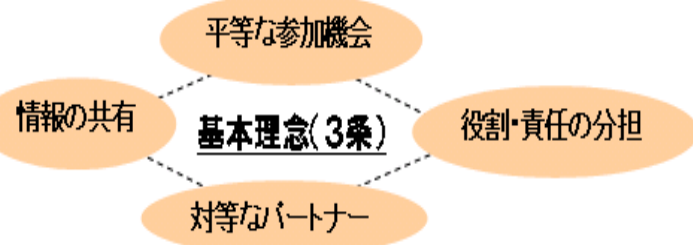
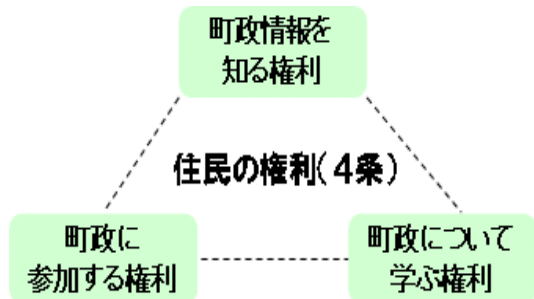
住民一人ひとりの感性や豊かな経験がまちづくりに活かされる環境を目指して、様々な立場の住民がまちづくりの情報を共有し、様々な場面で知恵と力を出し合い、尊重し合って主体的に行動することをまちづくりの基本とするため、この条例を定めます。



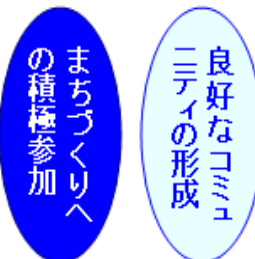
目的と定義(1条・2条)

住民のまちづくり参加の促進と住民自治の実現

- 【住民】 町内の個人と団体 (企業・大学を含む)
- 【住民参加】 まちづくりの企画立案～事業実施～評価に住民が関わること
- 【協働】 住民と町が役割分担し、対等に協力し相互に補完し合っ て行動すること



住民の役割(5条)



※このほか、行政や議会の役割として住民参加や協働の環境整備などを規定しています。(6条～8条)

協働推進の経過

平成17年度
住民参加で総合振興計画の施策を立案

- まちづくりワークショップ
- まちづくり地域懇談会、まちづくり団体懇談会
- まちづくり提案 (提案箱・メール・郵便)

↓

平成18年度
手づくりの「第4次総合振興計画」がスタート

- 将来像「みんながつくる みどり いきいきぬくもり のまち」
- 重点施策「協働プロジェクト」に基づき、協働のまちづくり研究員を住民公募
- ・年間12回の研究会と2回の公開学習会を開催
- ・協働のまちづくり研究報告(協働条例案を含む)を町長に提出

↓

平成19年度
協働推進本部を設置

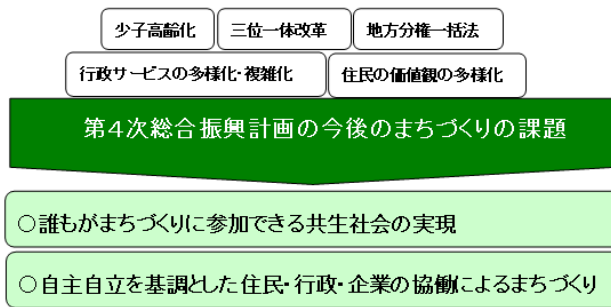
- 協働のまちづくり推進計画策定(研究報告に基づく)
- 情報共有・意見公募制度として「パブリック・コメント条例」を施行
- 協働のまちづくりネットワーク準備会スタート
 - ・「協働のまちづくりネットワーク」の組織・事業について検討
 - ・まちづくりワークショップ(2回)開催
- 淑徳大学とのまちづくり協定調印
- 協働のまちづくり条例制定(3月議会)

【協働のまちづくり推進計画の概要】

住民研究報告で提言した協働のしくみを具体化するため、平成19年10月に協働推進本部が策定。

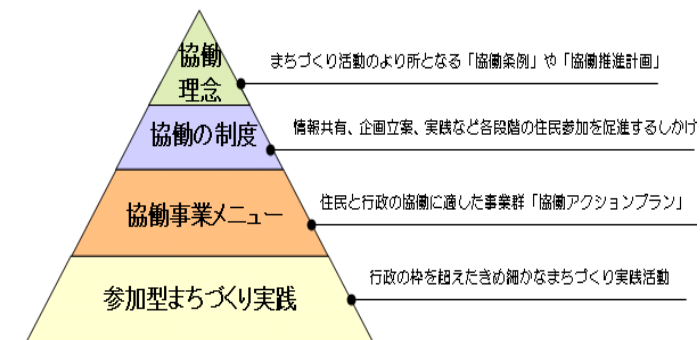
- 計画期間 平成19年度～23年度(5年間)
- 協働のルール策定
 - ◇協働のまちづくり条例の制定
 - ◇協働のまちづくりを推進する制度
- 協働推進体制の整備
 - ◇住民の協働ネットワーク
 - ◇行政の協働推進本部
- 協働のまちづくり事業の立案
 - ◇協働アクションプランの策定(事業メニュー)

計画策定の目的



パートナーシップのまちづくり
(協働プロジェクトの具体化)

協働ルールの体系



発行 埼玉県三芳町 平成20年5月
編集 三芳町行政改革・協働推進本部
協力 協働のまちづくりネットワーク準備会
<三芳町地域振興課>
埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1100番地1
TEL 049-258-0019/FAX 049-274-1053
URL: <http://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp>
e-mail: chiiki@town.saitama-miyoshi.lg.jp

※「協働のまちづくり条例」「協働のまちづくり推進計画」「第4次総合振興計画」は、町ホームページ・役場4階情報資料室・各出張所・各公民館・図書館・歴史民俗資料館で閲覧することができます。

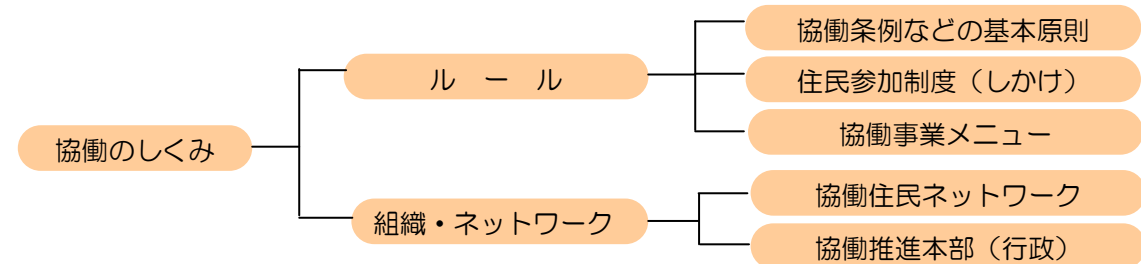
まちづくりネットワークに参加しよう！



協働のしくみ

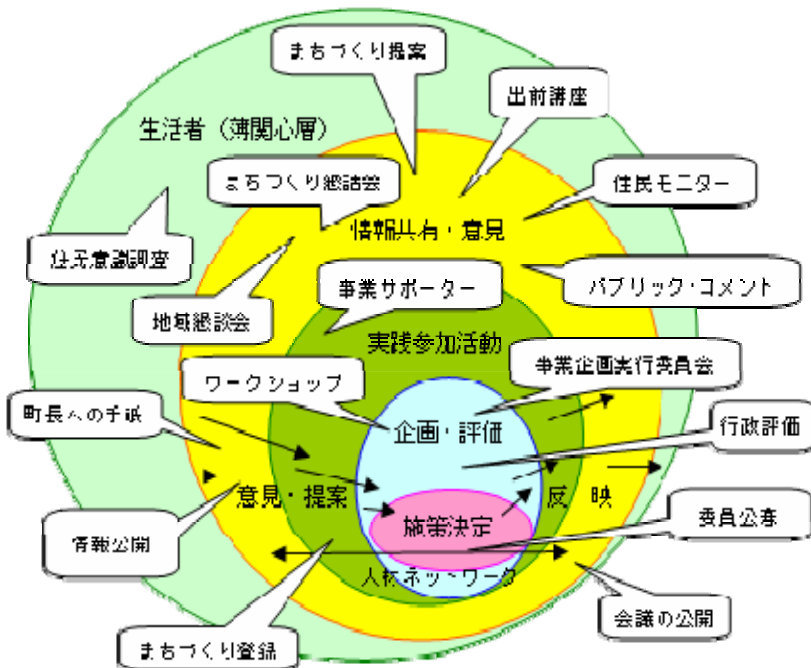
※「協働のまちづくり推進計画」より

立場の異なる者同士が心をひとつにしてまちづくりに取り組むためには、ルールや推進体制が必要になります。ルールはみんなで育てていきます。また、ネットワークは住民誰でも参加できることが基本です。



<まちづくりワークショップ>

住民参加を促進する制度(条例9条)

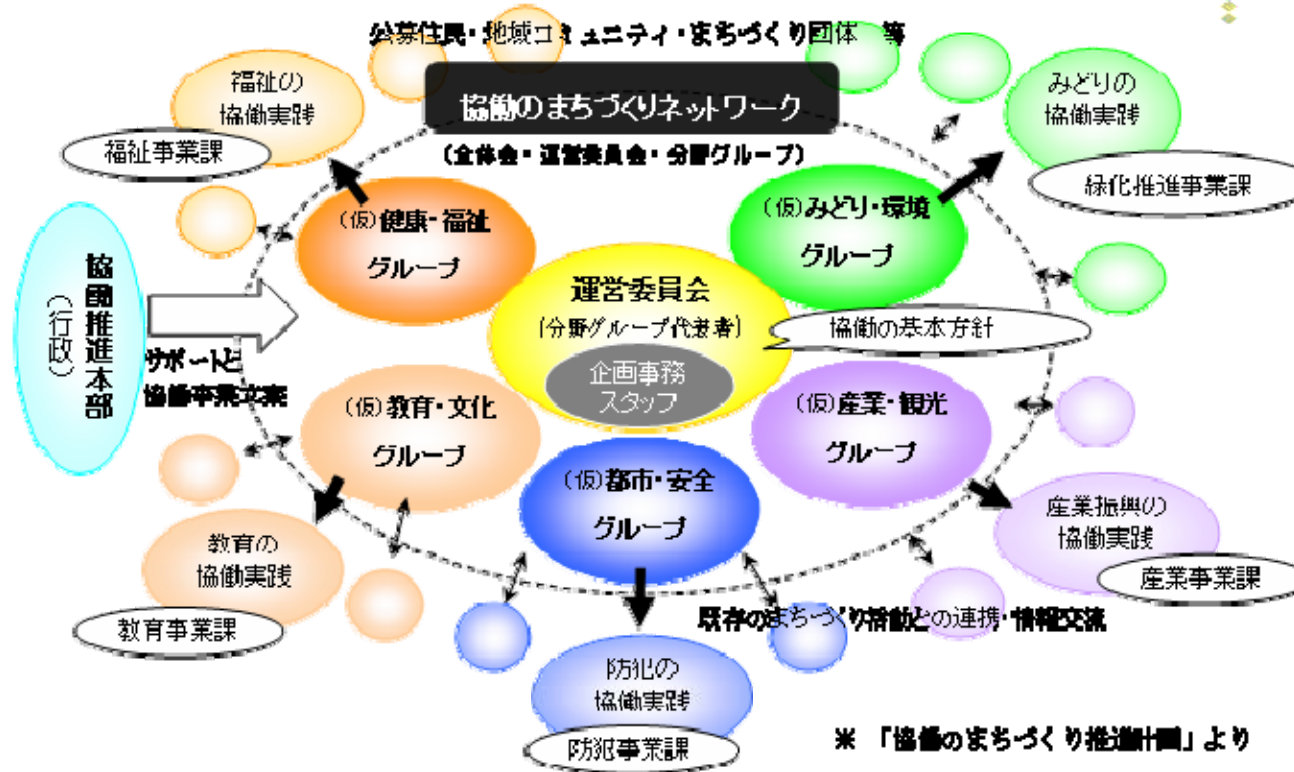


まちづくりは、福祉や健康、子育てや教育、防犯・防災、環境、産業など多分野におよびます。皆さんが何らかの形でまちづくりに関われるよう、事業の段階ごとに住民参加の方法を制度化していきます。

- 1 情報共有及び広聴の制度
- 2 事業実践段階への参加制度
- 3 事業企画～決定過程への参加制度
- 4 事業評価段階の参加制度

協働の推進体制(条例10条)

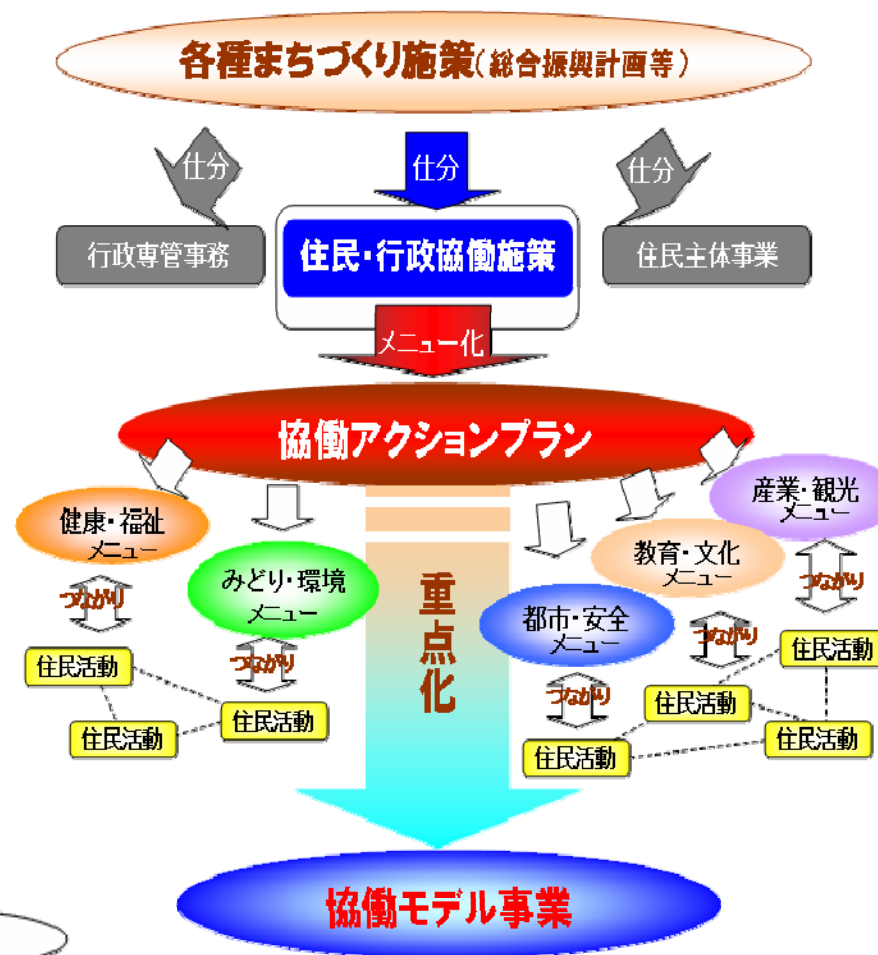
住民主体のまちづくりネットワークと行政の協働推進本部が連携して、協働のまちづくりを推進していきます。「協働のまちづくりネットワーク」には住民が誰でも参加でき、分野グループへの登録により、協働に適した事業のメニュー化やモデル事業の企画実施、活動相互の連携や情報収集発信などの活動を行います。7月1日広報みよしで募集開始予定です。



※「協働のまちづくり推進計画」より

協働の事業化プロセス

※「協働のまちづくり推進計画」より



<雑木林の市民管理協定>

三芳町と淑徳大学との連携協力に関する包括協定書

三芳町と淑徳大学(以下「両者」という。)は、包括的な連携協力に合意した証としてここに協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、両者が包括的な連携協力のもと、まちづくり分野全般にわたって資源の相互活用と人的交流を行い、もって協働により地域社会の発展、地域人材の育成及び学術の振興に貢献することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について、相互に協力するものとする。

- (1) 協働のまちづくりに関する事項
- (2) 環境及び産業に関する事項
- (3) 健康及び福祉に関する事項
- (4) 教育、文化及びスポーツに関する事項
- (5) 人材の育成及び学術の振興に関する事項
- (6) その他、両者が必要と認める事項

(協議事項)

第3条 連携協力細目等の具体的事項については、両者が個別に協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、3年間とする。ただし、期間満了日の1か月前までに、両者のいずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後の更新についても同様とする。

(その他)

第5条 この協定に関し疑義が生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

この協定の成立を証するため、本書2通を作成し、両者が署名押印のうえ、各々その1通を保有するものとする。

平成19年10月27日

埼玉県入間郡三芳町

三芳町長 鈴木英美



学校法人大乗淑徳学園

淑徳大学 学長 長谷川匡俊

